

4 支援機関

(1) 育成支援機関等の認知度

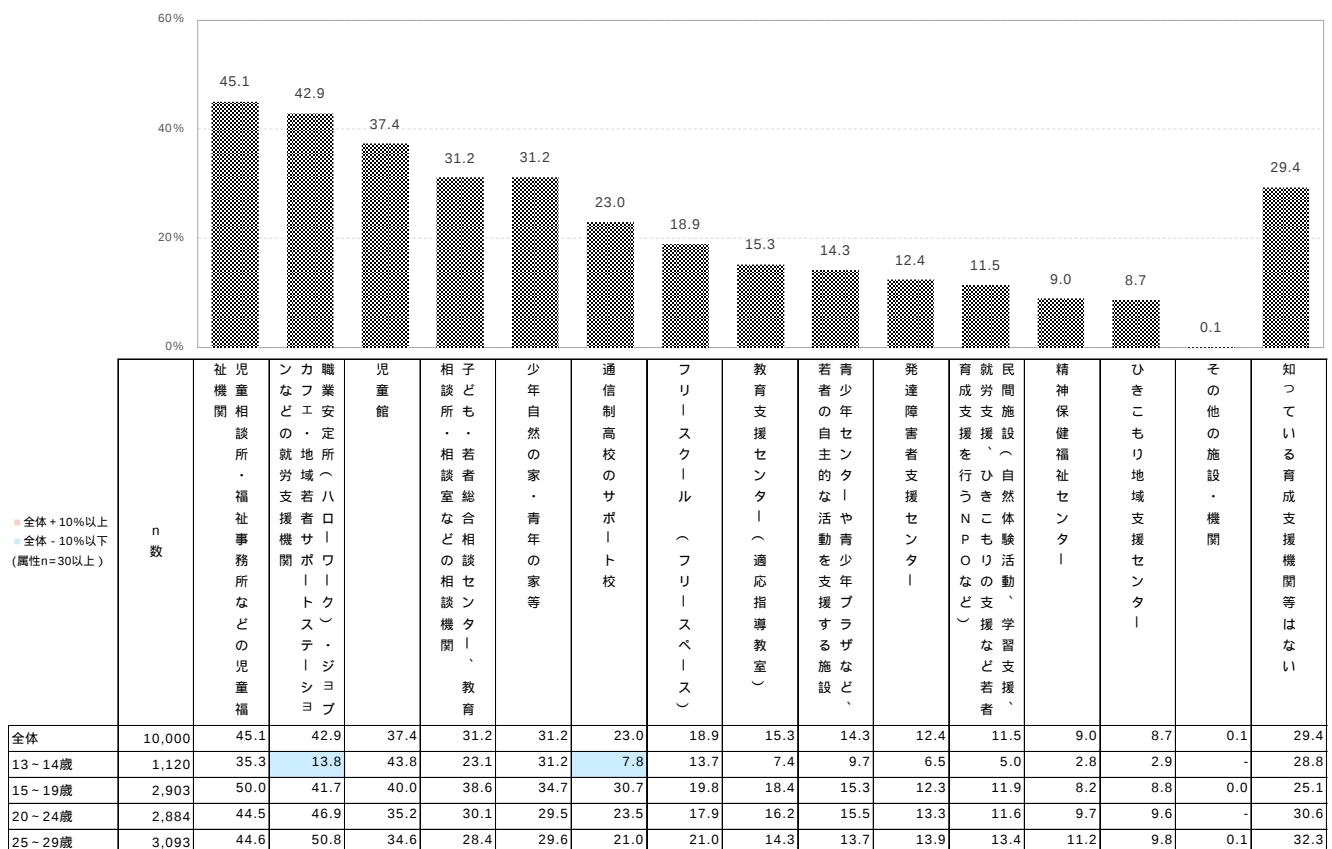
Q16-1. あなたは、子供・若者を対象とした育成支援機関等を知っていますか。知っている育成支援機関等をすべて選んでください。 [MA]

育成支援機関等の認知度について、全体では「児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関」(45.1%)が最も高い。次いで「職業安定所(ハローワーク)・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」(42.9%)、「児童館」(37.4%)、「子ども・若者総合相談センター、教育相談所・相談室などの相談機関」(31.2%)、「少年自然の家・青年の家等」(31.2%)と続く。

年齢区分別でみると、「13～14歳」は「職業安定所(ハローワーク)・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」(13.8%)、「通信制高校のサポート校」(7.8%)が、全体と比べ10ポイント以上低く、有意差も認められている。また、「児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関」は「15～19歳」(50.0%)が、他の年代と比べ最も高く、全体と比較した結果、有意差が認められている。

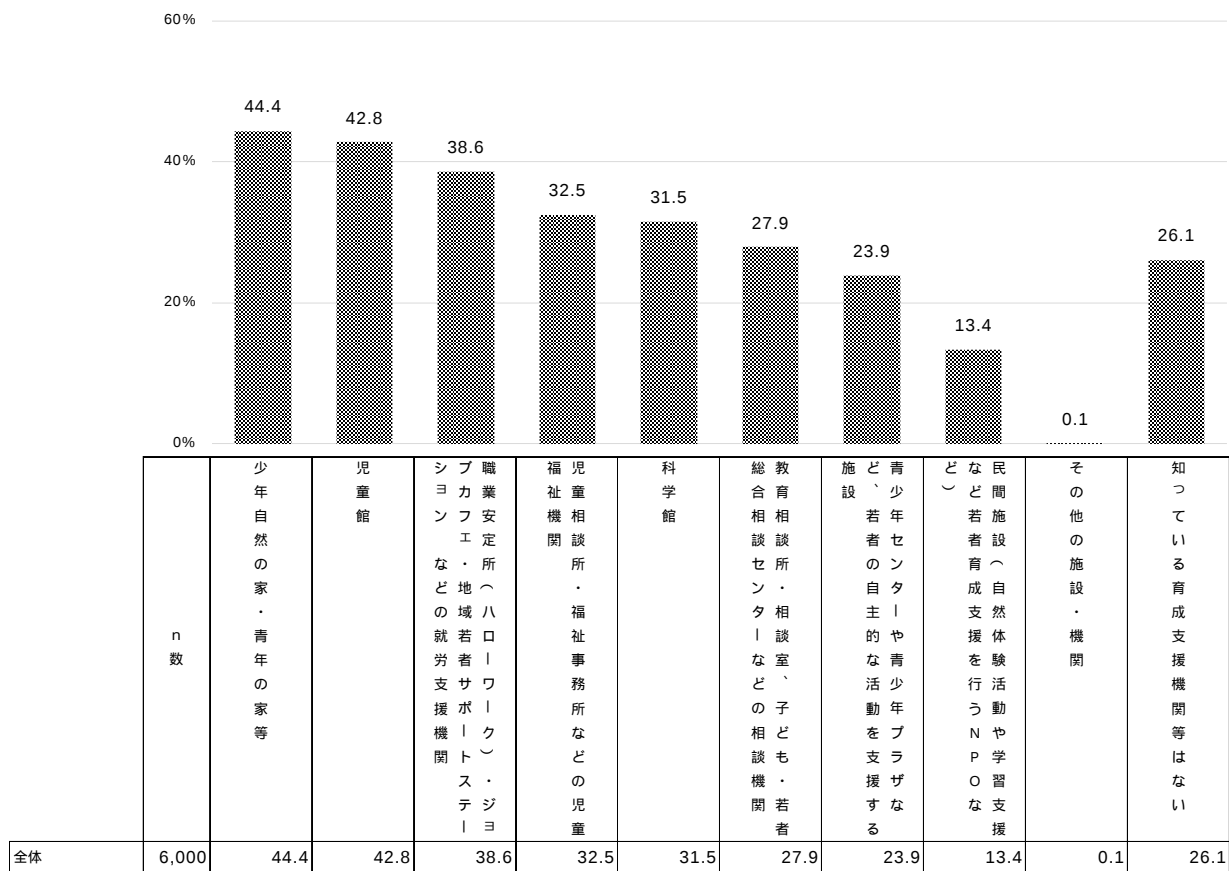
過去の調査と比較すると、「児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関」は12.6ポイント、「職業安定所(ハローワーク)・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」は4.3ポイント増加している。

一方、「少年自然の家・青年の家等」は13.2ポイント、「青少年センターや青少年プラザなど、若者の自主的な活動を支援する施設」は9.6ポイント減少している。



<平成 28 年度調査結果>

Q. あなたは、子供・若者を対象とした育成支援機関等を知っていますか。知っている育成支援機関等をすべて選んでください。 [MA]



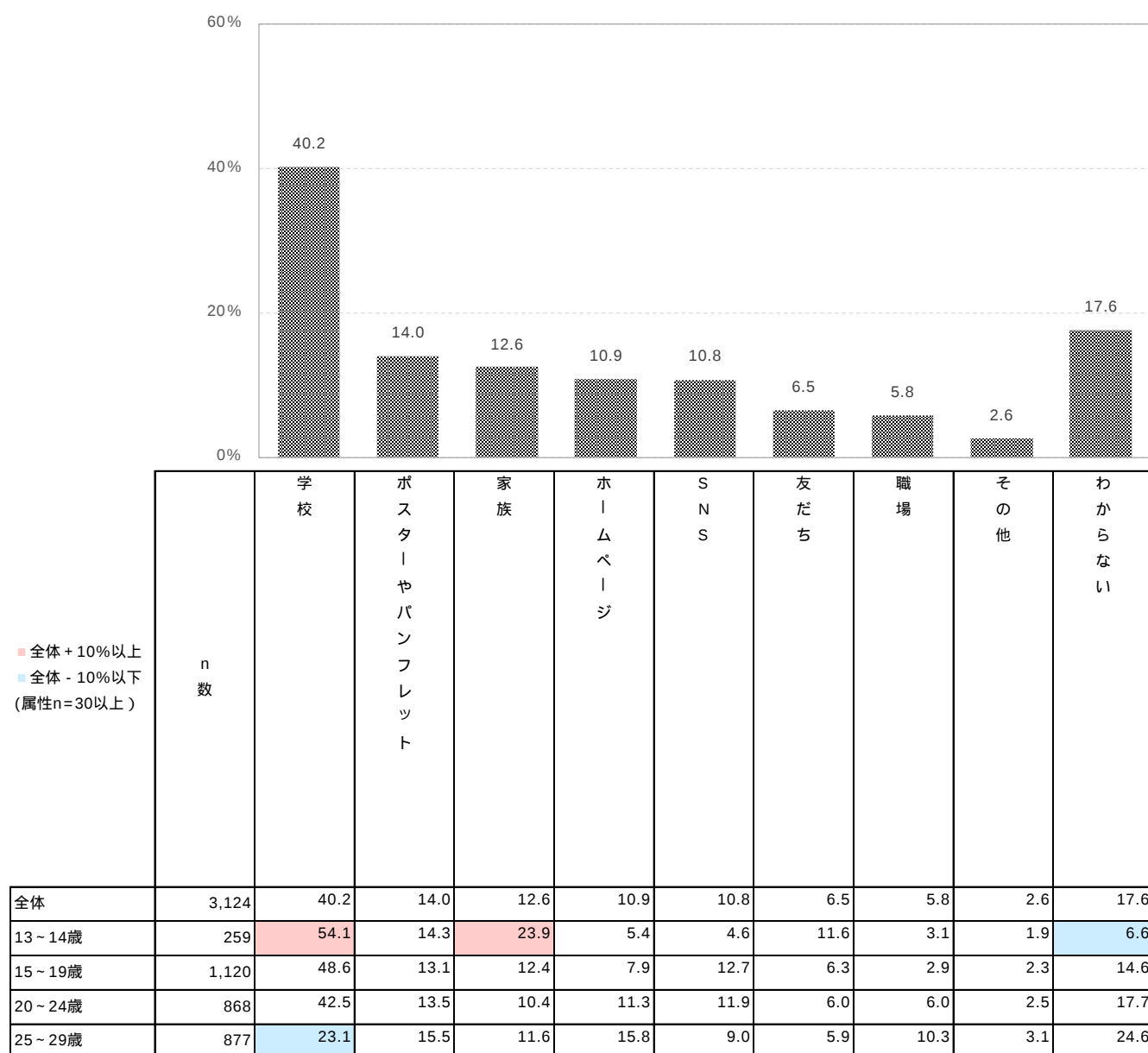
Q16-2. 育成支援機関等があることを知ったきっかけは次のうちどれですか？[MA]

【子ども・若者総合相談センター、教育相談所・相談室などの相談機関】

【子ども・若者総合相談センター、教育相談所・相談室などの相談機関】の認知したきっかけについて、全体では「学校」(40.2%)が最も高い。次いで「ポスターやパンフレット」(14.0%)、「家族」(12.6%)、「ホームページ」(10.9%)、「SNS」(10.8%)と続く。

年齢区分別でみると、“13～14歳”は「学校」(54.1%)、「家族」(23.9%)が、全体と比べ10ポイント以上高く、有意差も認められている。

“25～29歳”は「学校」(23.1%)が、全体と比べ15ポイント以上低く、有意差も認められている。



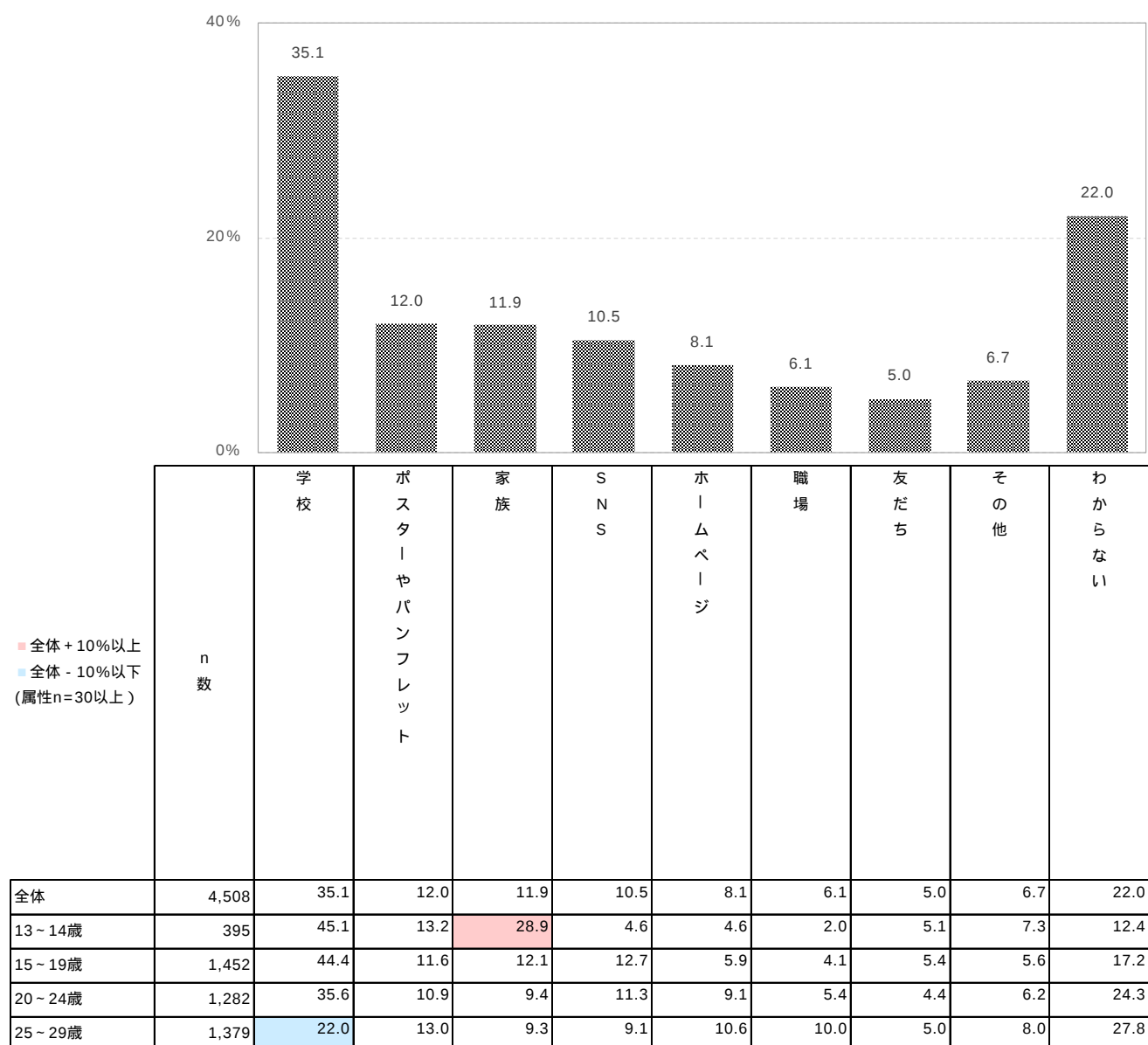
【子ども・若者総合相談センター、教育相談所・相談室などの相談機関】認知者のみ回答

【児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関】

【児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関】の認知したきっかけについて、全体では「学校」(35.1%)が最も高い。次いで「ポスターやパンフレット」(12.0%)、「家族」(11.9%)、「SNS」(10.5%)、「ホームページ」(8.1%)と続く。

年齢区分別でみると、「家族」は“13～14歳”(28.9%)が、全体と比べ15ポイント以上高く、有意差も認められている。

「学校」は“25～29歳”(22.0%)が、全体と比べ10ポイント以上低く、有意差も認められている。

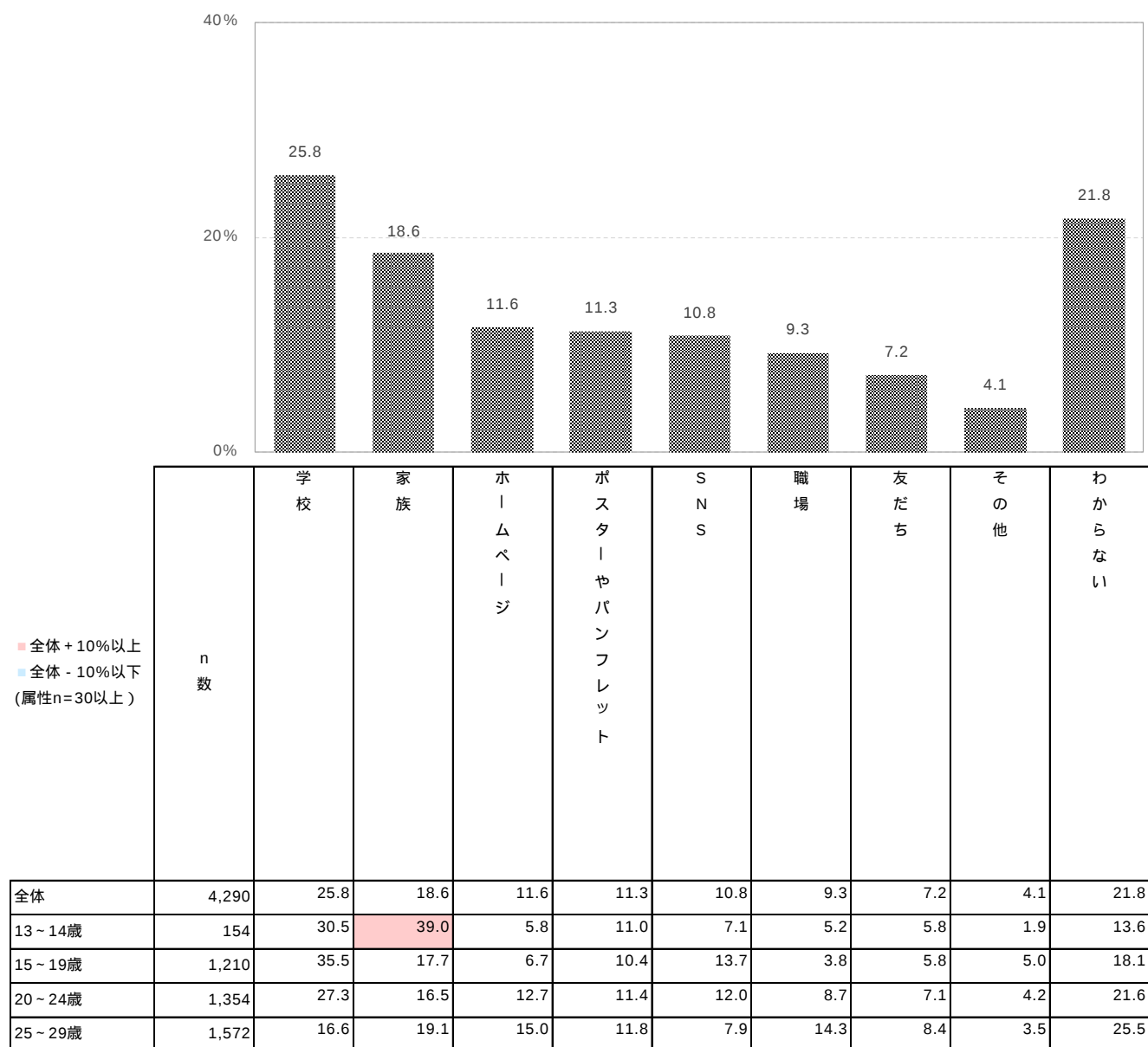


【児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関】認知者のみ回答

【職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関】

【職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関】の認知したきっかけについて、全体では「学校」(25.8%)が最も高い。次いで「家族」(18.6%)、「ホームページ」(11.6%)、「ポスターやパンフレット」(11.3%)、「SNS」(10.8%)と続く。

年齢区分別でみると、「家族」は“13～14歳”(39.0%)が、全体と比べ20ポイント以上高く、有意差も認められている。

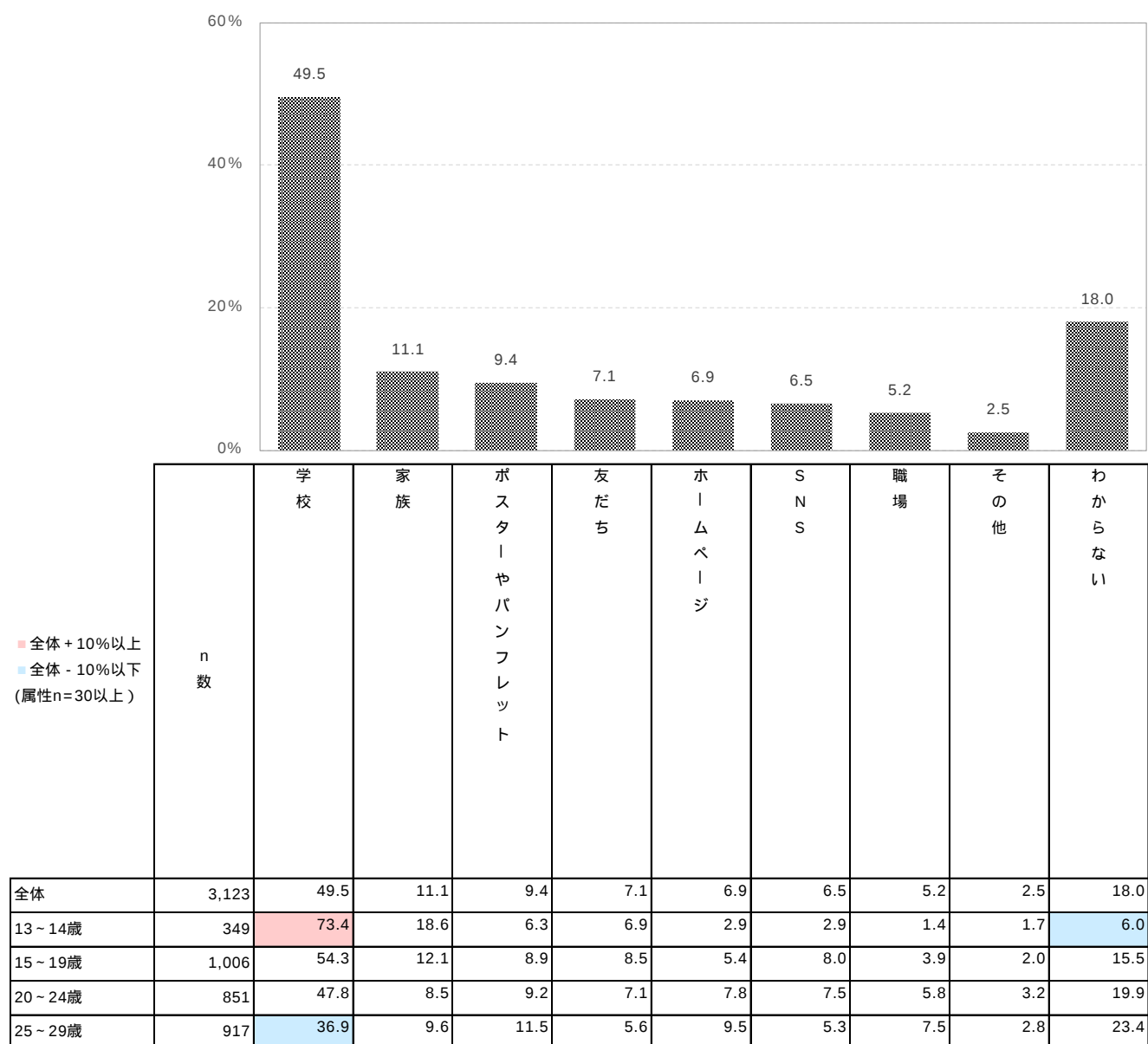


【職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関】
認知者のみ回答

【少年自然の家・青年の家等】

【少年自然の家・青年の家等】の認知したきっかけについて、全体では「学校」(49.5%)と最も高い。次いで「家族」(11.1%)、「ポスターやパンフレット」(9.4%)、「友だち」(7.1%)、「ホームページ」(6.9%)と続く。

年齢区分別でみると、「学校」は全体と比べて、“13～14歳”(73.4%)が20ポイント以上高く、“25～29歳”(36.9%)は10ポイント以上低く、全体と比較した結果、どちらも有意差が認められた。



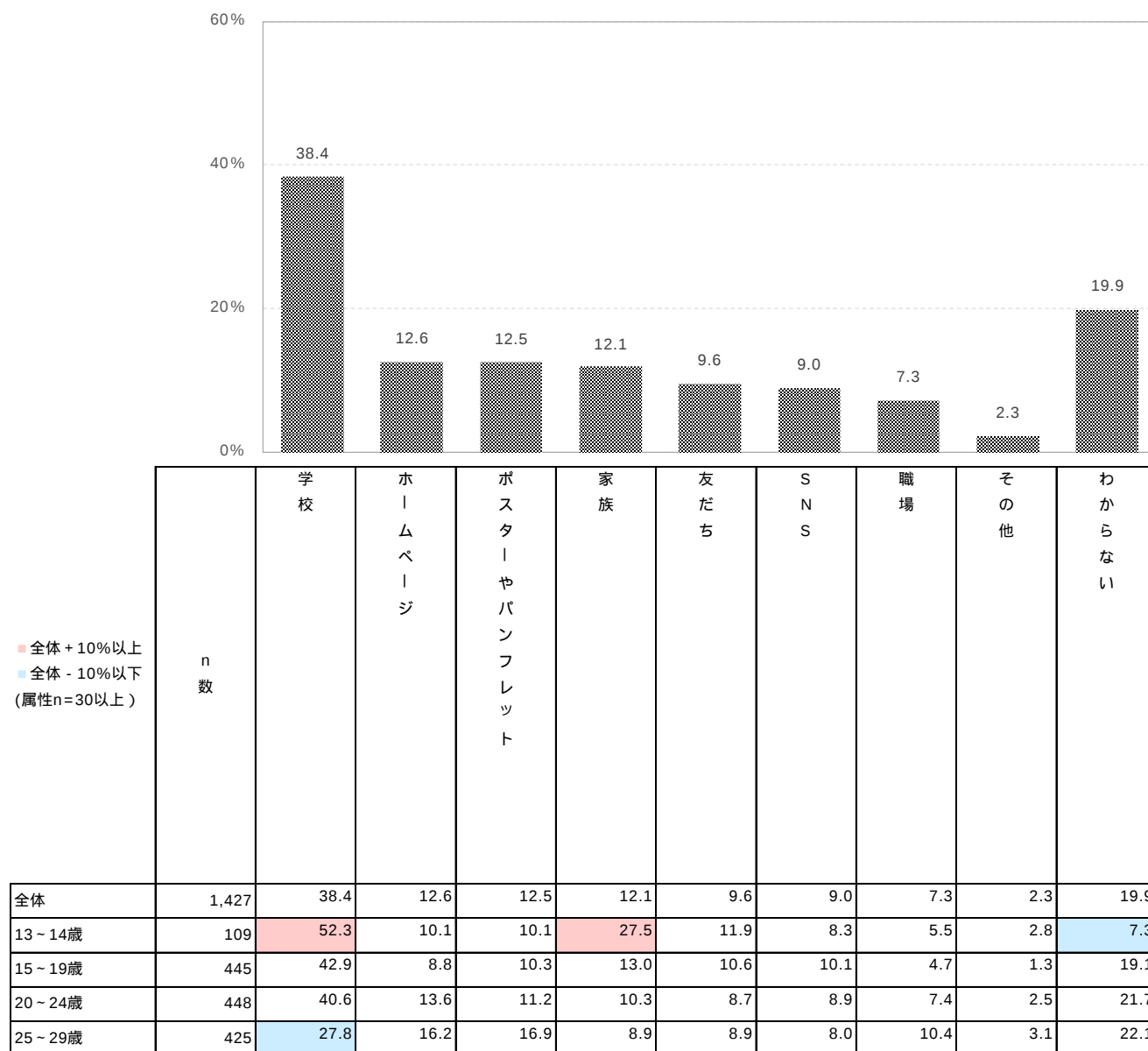
【少年自然の家・青年の家等】認知者のみ回答

【青少年センターや青少年プラザなど、若者の自主的な活動を支援する施設】

【青少年センターや青少年プラザなど、若者の自主的な活動を支援する施設】の認知したきっかけについて、全体では「学校」(38.4%)が最も高い。次いで「ホームページ」(12.6%)、「ポスターやパンフレット」(12.5%)、「家族」(12.1%)、「友だち」(9.6%)と続く。

年齢区分別でみると、“13～14歳”は全体と比べて、「学校」(52.3%)が10ポイント以上高く、「家族」(27.5%)は15ポイント以上高く、どちらも有意差が認められた。

“25～29歳”は「学校」(27.8%)が、全体と比べ10ポイント以上低く、有意差も認められている。



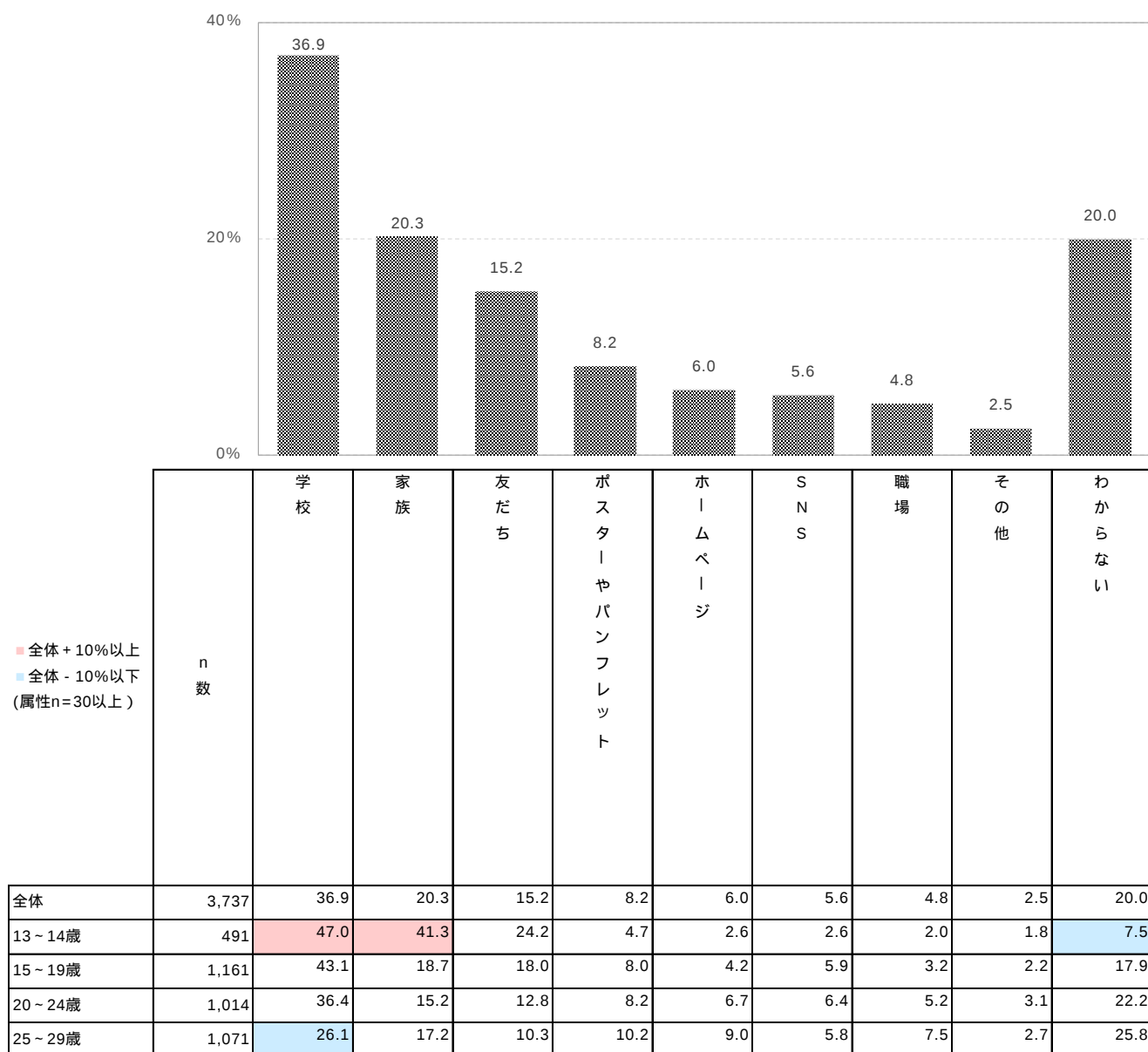
【青少年センターや青少年プラザなど、若者の自主的な活動を支援する施設】認知者のみ回答

【児童館】

【児童館】の認知したきっかけについて、全体では「学校」(36.9%)が最も高い。次いで「家族」(20.3%)、「友だち」(15.2%)、「ポスターやパンフレット」(8.2%)、「ホームページ」(6.0%)と続く。

年齢区分別でみると、“13～14歳”は全体と比べて、「学校」(47.0%)が10ポイント以上高く、「家族」(41.3%)は20ポイント以上高く、どちらも有意差が認められた。

“25～29歳”は「学校」(26.1%)が、全体と比べ10ポイント以上低く、有意差も認められている。



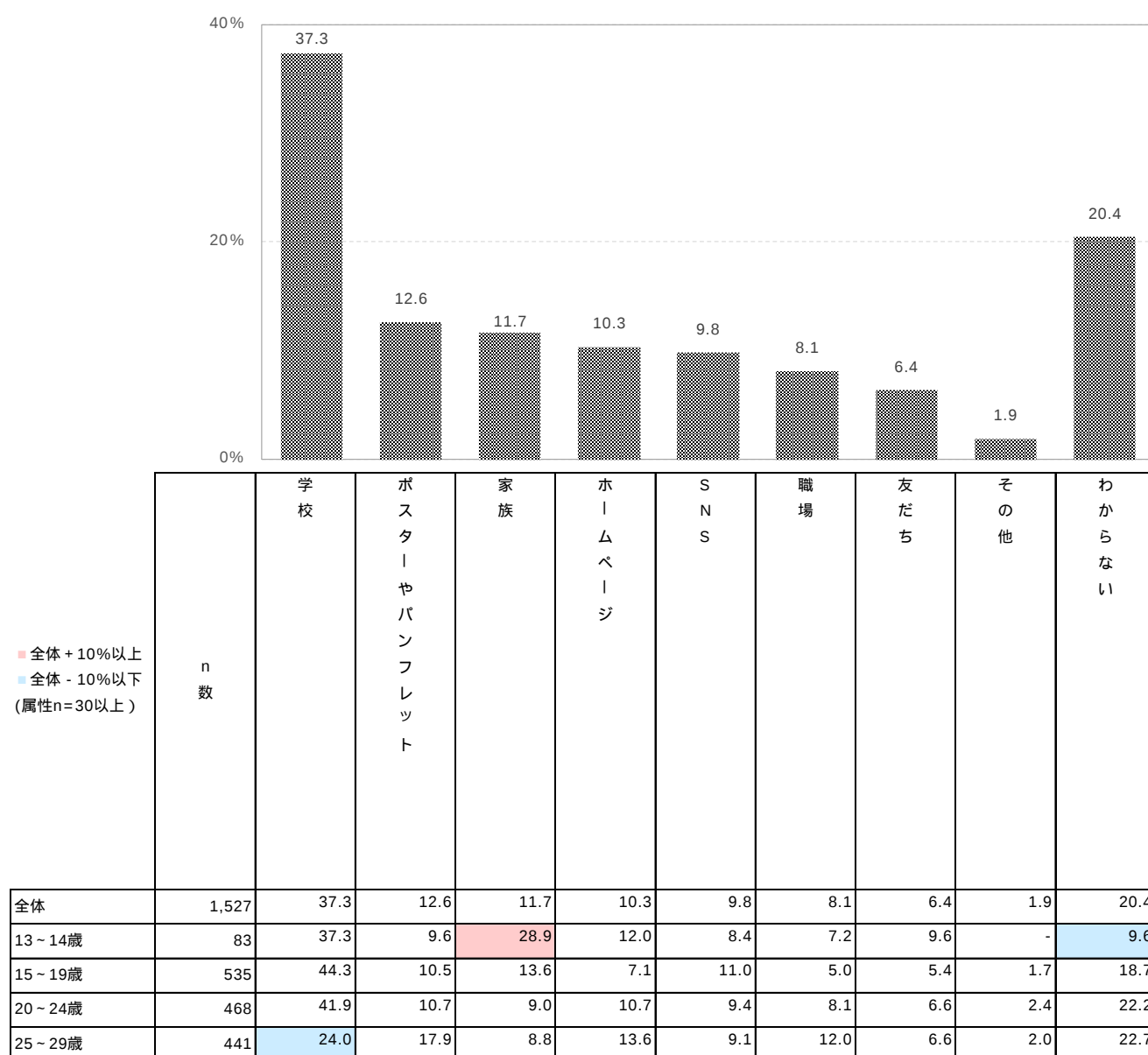
【児童館】認知者のみ回答

【教育支援センター（適応指導教室）】

【教育支援センター（適応指導教室）】の認知したきっかけについて、全体では「学校」(37.3%)が最も高い。次いで「ポスターやパンフレット」(12.6%)、「家族」(11.7%)、「ホームページ」(10.3%)、「SNS」(9.8%)と続く。

年齢区分別でみると、“13～14歳”は「家族」(28.9%)が、全体と比べ15ポイント以上高く、有意差が認められた。

“25～29歳”は「学校」(24.0%)が、全体と比べ10ポイント以上低く、有意差も認められている。

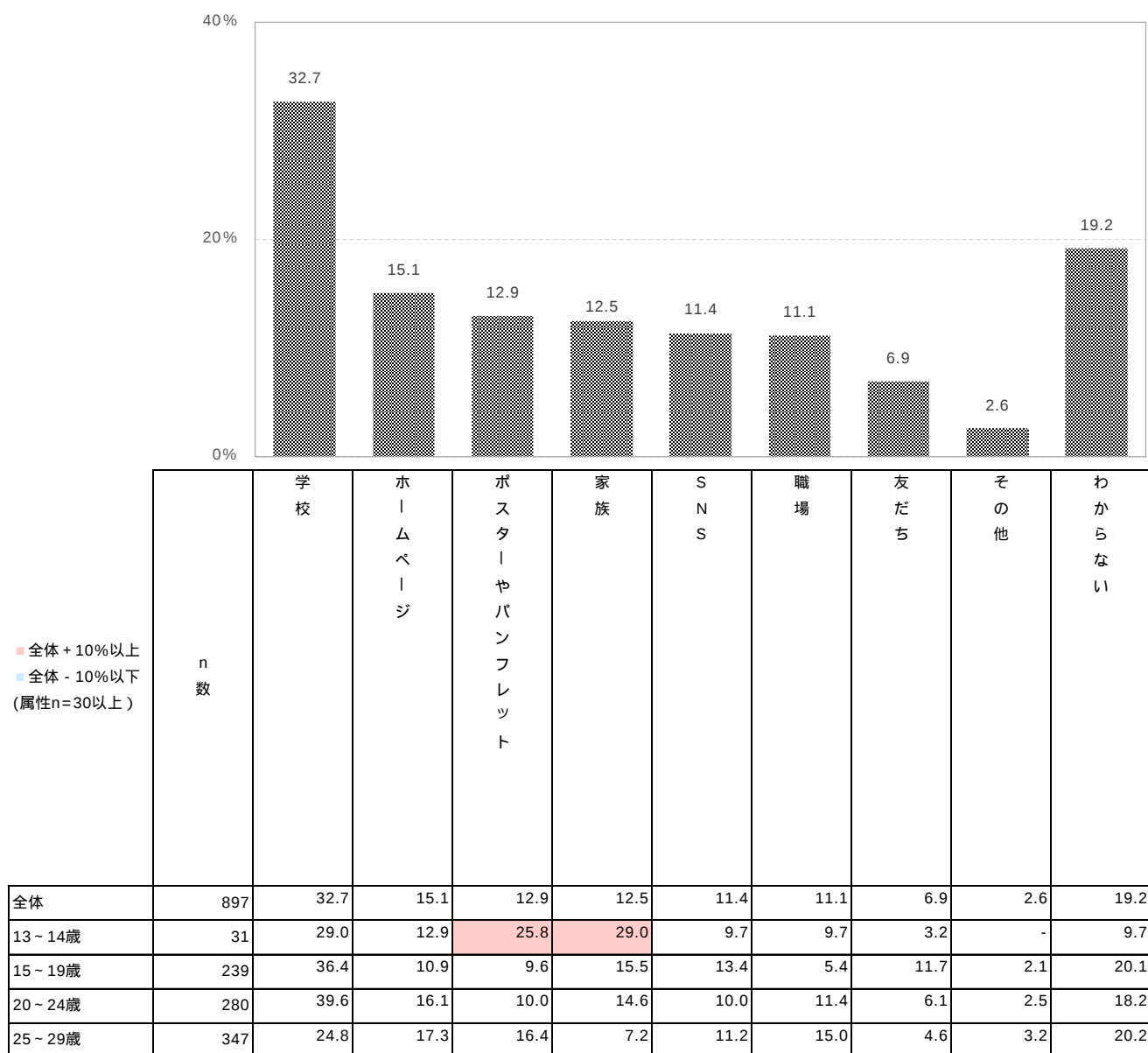


【教育支援センター（適応指導教室）】認知者のみ回答

【精神保健福祉センター】

【精神保健福祉センター】の認知したきっかけについて、全体では「学校」(32.7%)が最も高い。次いで「ホームページ」(15.1%)、「ポスターやパンフレット」(12.9%)、「家族」(12.5%)、「SNS」(11.4%)と続く。

年齢区分別でみると、“13～14歳”は全体と比べて、「家族」(29.0%)が15ポイント以上高く、有意差が認められた。また、「学校」では、“20～24歳”(39.6%)が最も高く、全体と比べても有意差が認められている。

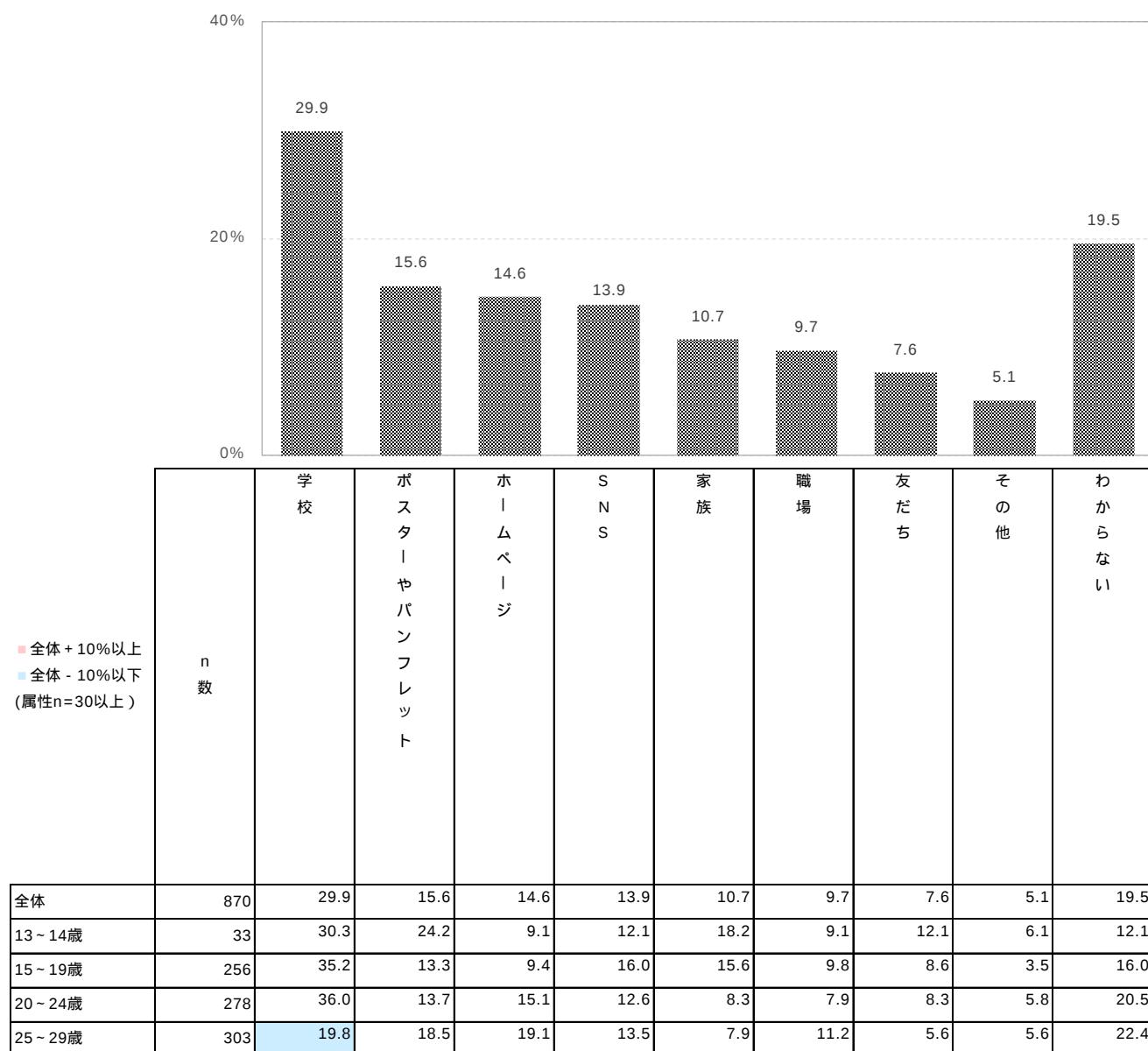


【精神保健福祉センター】認知者のみ回答

【ひきこもり地域支援センター】

【ひきこもり地域支援センター】の認知したきっかけについて、全体では「学校」(29.9%)と最も高い。次いで「ポスターやパンフレット」(15.6%)、「ホームページ」(14.6%)、「SNS」(13.9%)、「家族」(10.7%)と続く。

年齢区分別でみると、“25～29歳”は「学校」(19.8%)が、全体と比べ10ポイント以上低く、有意差も認められている。また、「ホームページ」では“25～29歳”(19.1%)が最も高く、全体と比較しても有意差が認められた。

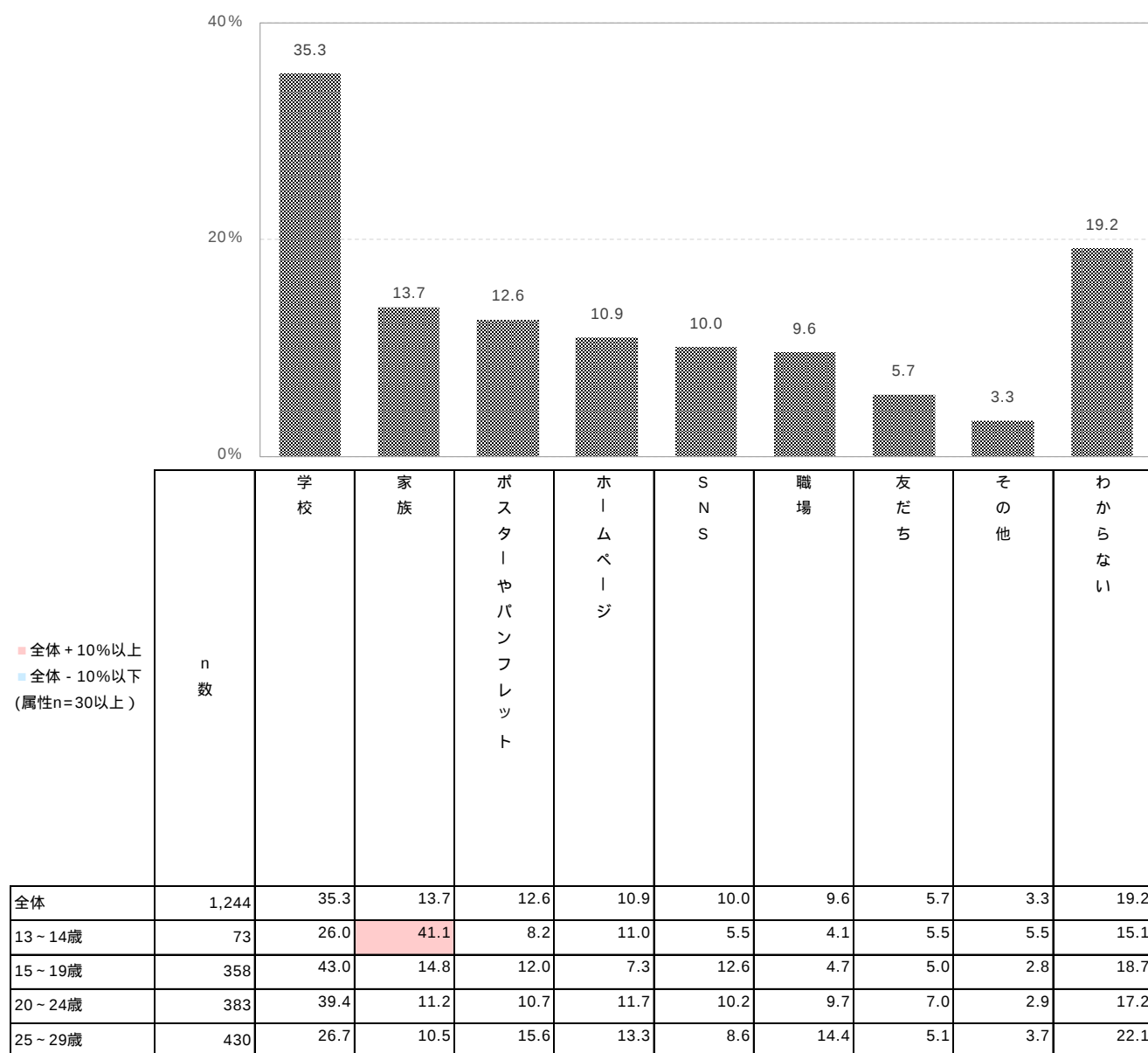


【ひきこもり地域支援センター】認知者のみ回答

【発達障害者支援センター】

【発達障害者支援センター】の認知したきっかけについて、全体では「学校」(35.3%)と最も高い。次いで「家族」(13.7%)、「ポスターやパンフレット」(12.6%)、「ホームページ」(10.9%)、「SNS」(10.0%)と続く。

年齢区分別でみると、“13～14歳”は「家族」(41.1%)が、全体と比べ25ポイント以上高く、有意差も認められている。

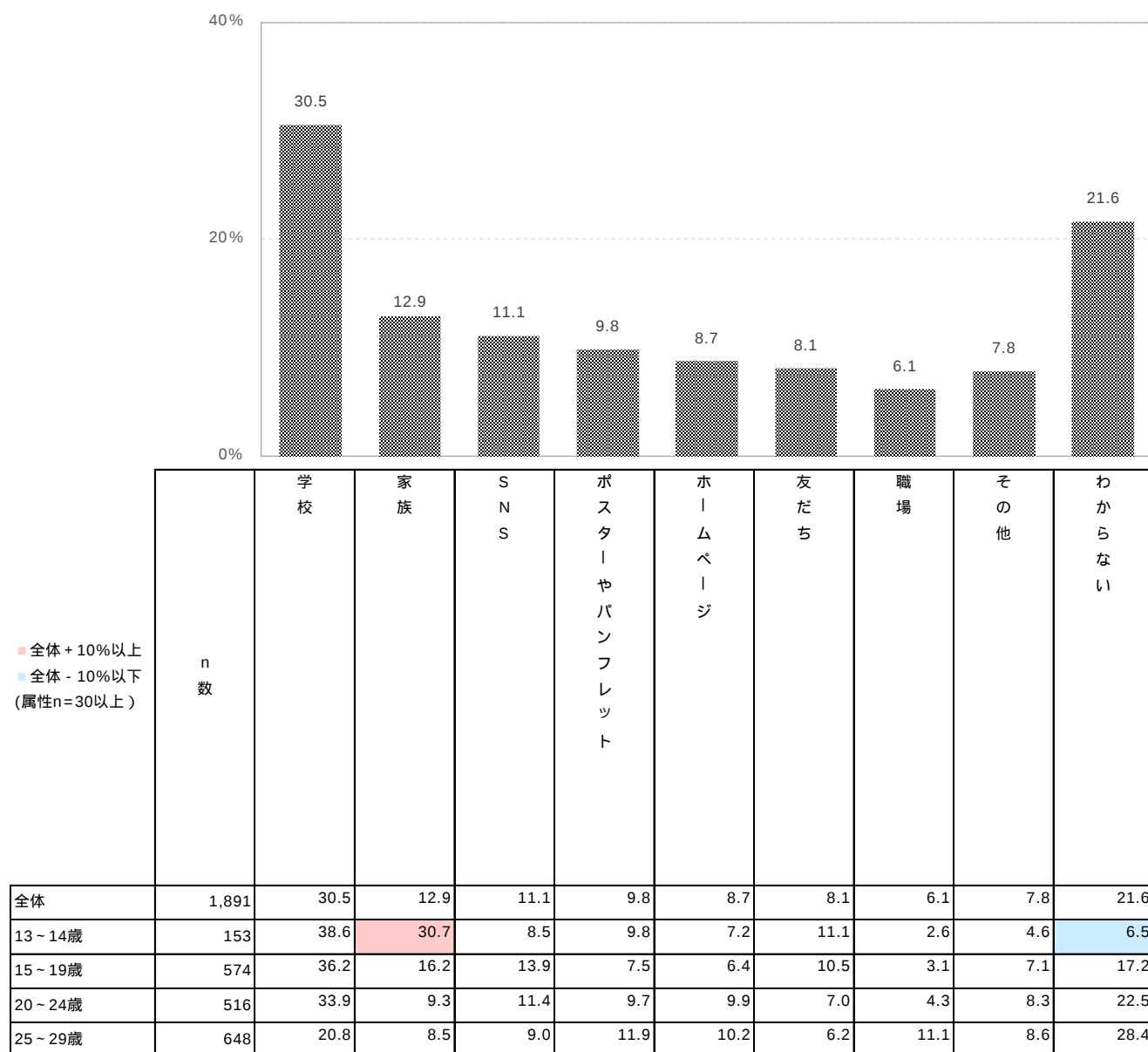


【発達障害者支援センター】認知者のみ回答

【フリースクール（フリースペース）】

【フリースクール（フリースペース）】の認知したきっかけについて、全体では「学校」(30.5%)と最も高い。次いで「家族」(12.9%)、「SNS」(11.1%)、「ポスターやパンフレット」(9.8%)、「ホームページ」(8.7%)と続く。

年齢区分別でみると、“13～14歳”は「家族」(30.7%)が、全体と比べ15ポイント以上高く、有意差も認められている。「SNS」では“15～19歳”(13.9%)が最も高く、全体と比較しても有意差が認められた。

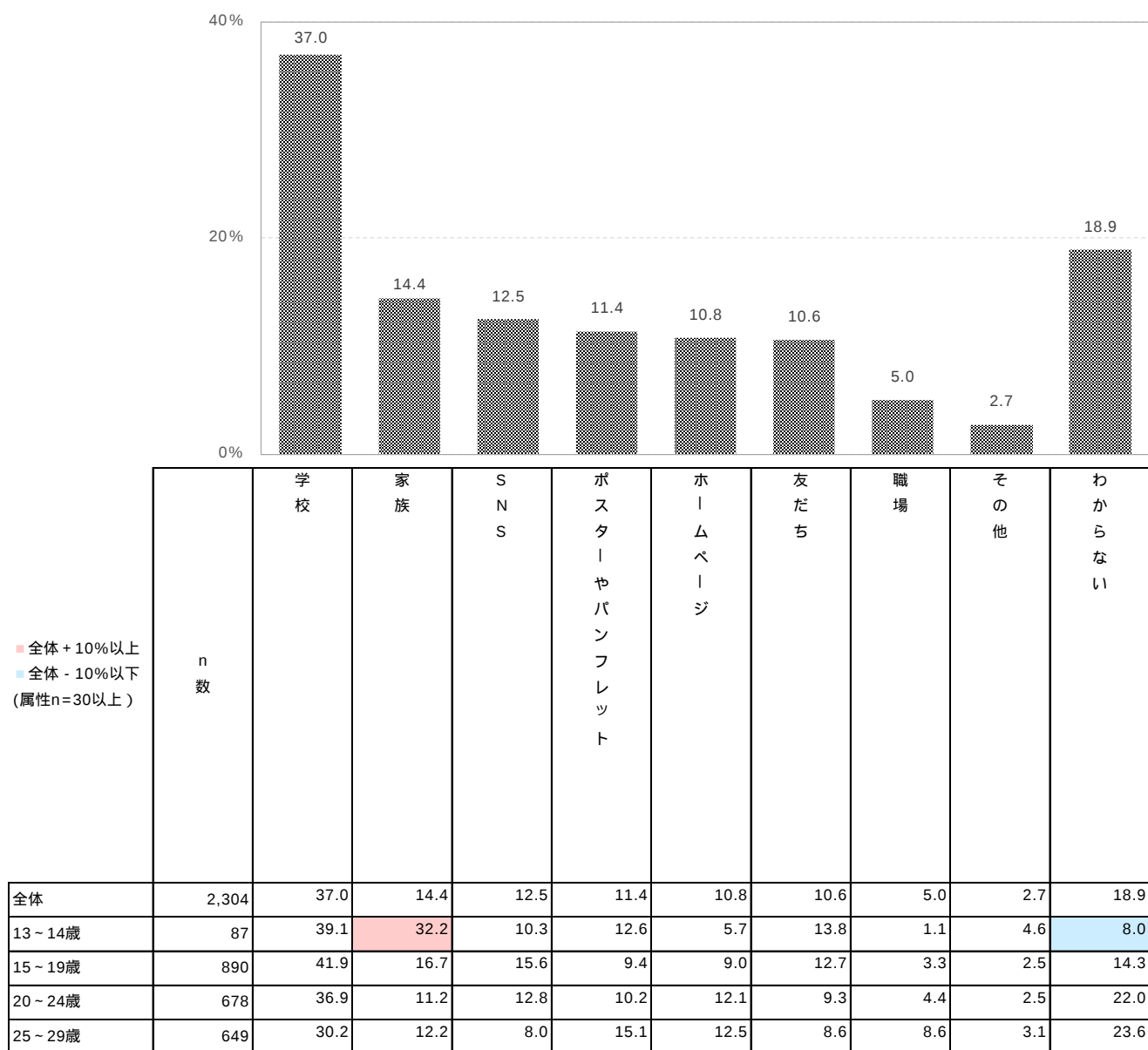


【フリースクール（フリースペース）】認知者のみ回答

【通信制高校のサポート校】

【通信制高校のサポート校】の認知したきっかけについて、全体では「学校」(37.0%)と最も高い。次いで「家族」(14.4%)、「SNS」(12.5%)、「ポスターやパンフレット」(11.4%)、「ホームページ」(10.8%)と続く。

年齢区分別でみると、“13～14歳”は「家族」(32.2%)が、全体と比べ15ポイント以上高く、有意差も認められている。「SNS」では“15～19歳”(15.6%)が最も高く、「ポスターやパンフレット」では“25～29歳”(15.1%)が最も高くなっており、どちらも全体と比べて有意差が認められている。

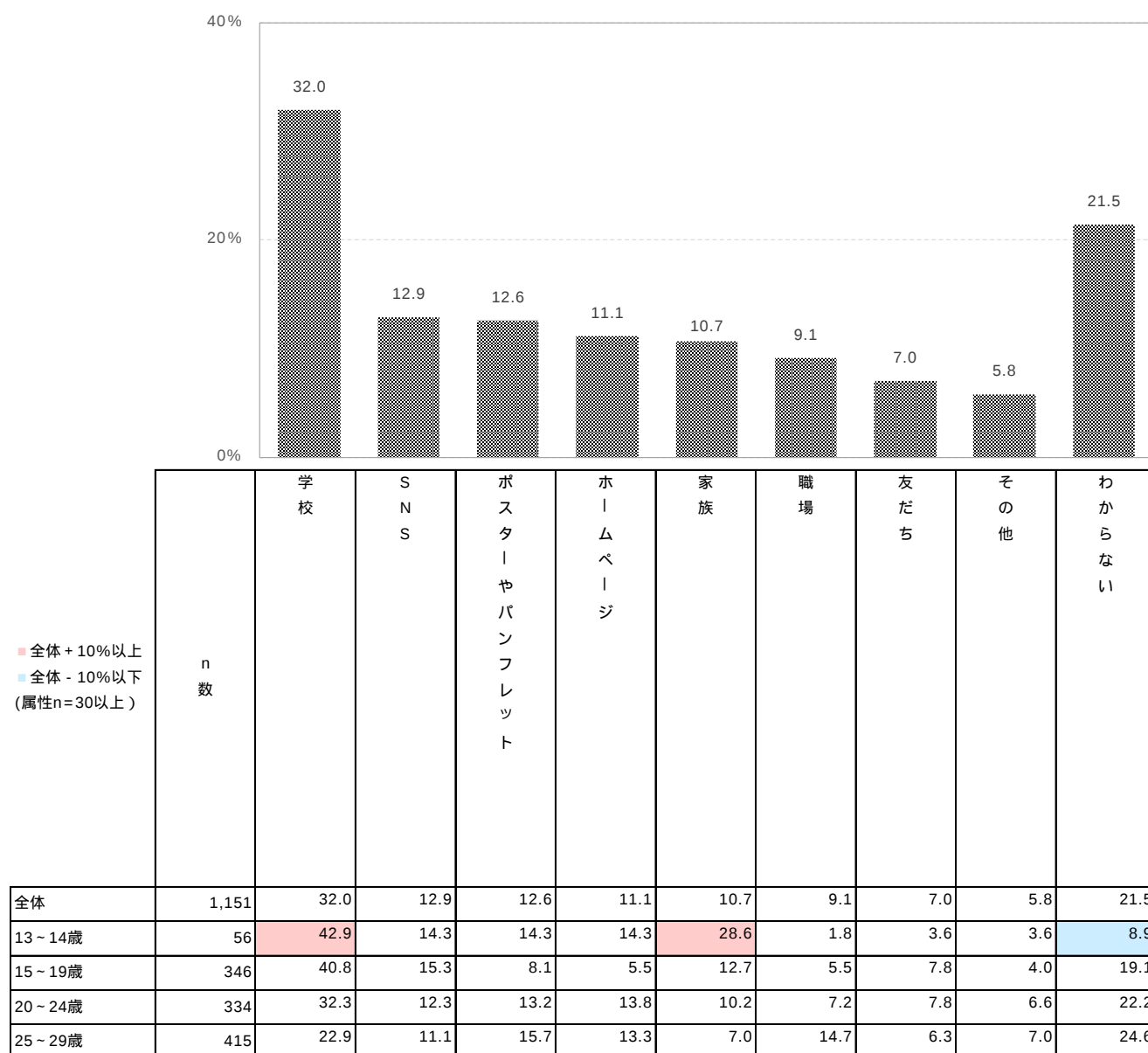


【通信制高校のサポート校】認知者のみ回答

【民間施設（自然体験活動、学習支援、就労支援、ひきこもりの支援など若者育成支援を行う NPO など）】

【民間施設（自然体験活動、学習支援、就労支援、ひきこもりの支援など若者育成支援を行う NPO など）】
 の認知したきっかけについて、全体では「学校」(32.0%)と最も高い。次いで「SNS」(12.9%)、「ポスターやパンフレット」(12.6%)、「ホームページ」(11.1%)、「家族」(10.7%)と続く。

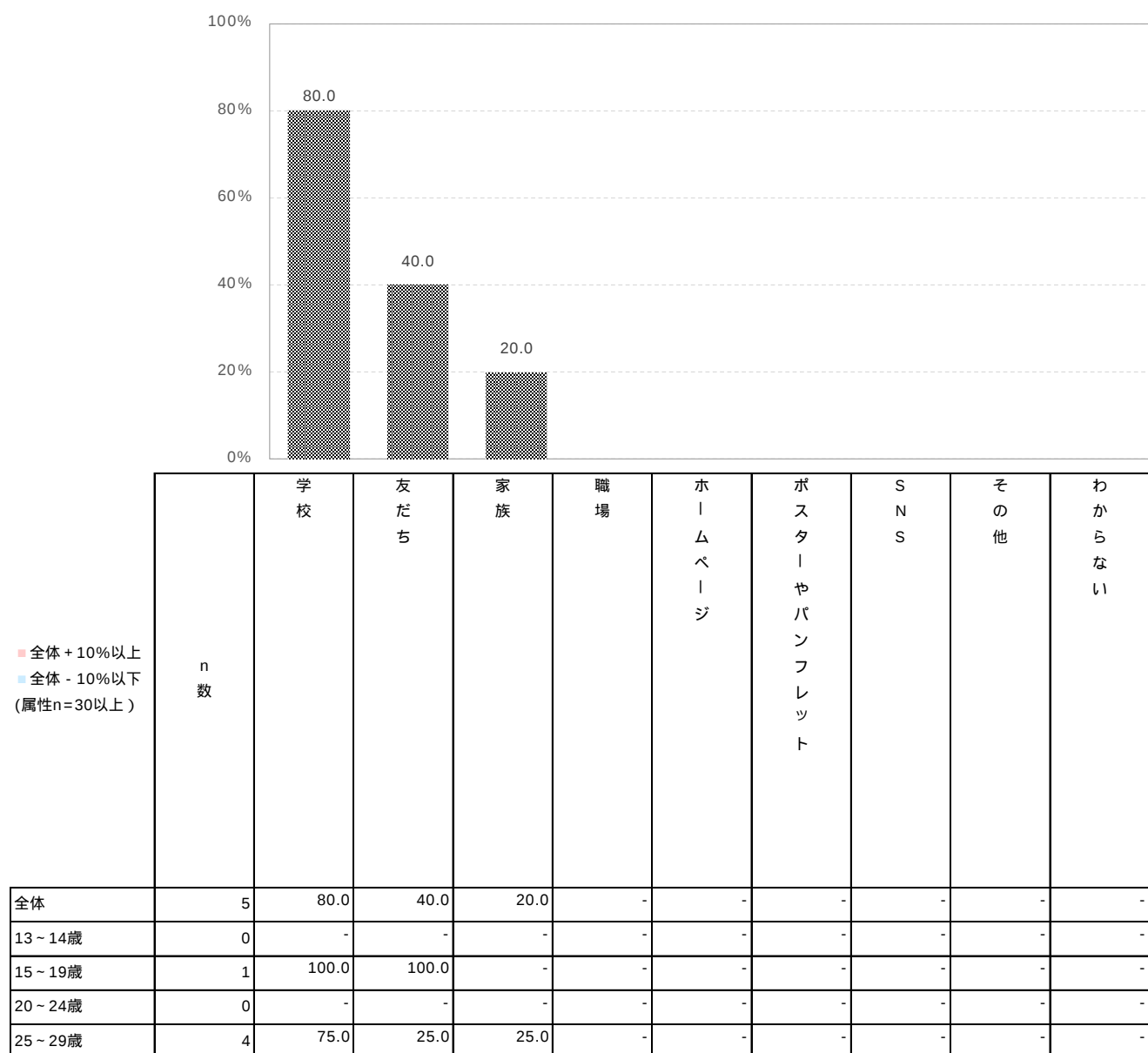
年齢区分別でみると、“13～14歳”は全体と比べて、「家族」(28.6%)が15ポイント以上高く、有意差が認められている。「ポスターやパンフレット」では“15～19歳”(8.1%)が最も低く、「ホームページ」でも“15～19歳”(5.5%)が最も低くなっており、どちらも全体と比較して有意差が認められた。



【民間施設（自然体験活動、学習支援、就労支援、ひきこもりの支援など若者育成支援を行う NPO など）】
 認知者のみ回答

【その他の施設・機関】

【その他の施設・機関】の認知したきっかけについて、全体では「学校」(80.0%)と最も高い。次いで「友だち」(40.0%)、「家族」(20.0%)と続く。



【その他の施設・機関】認知者のみ回答

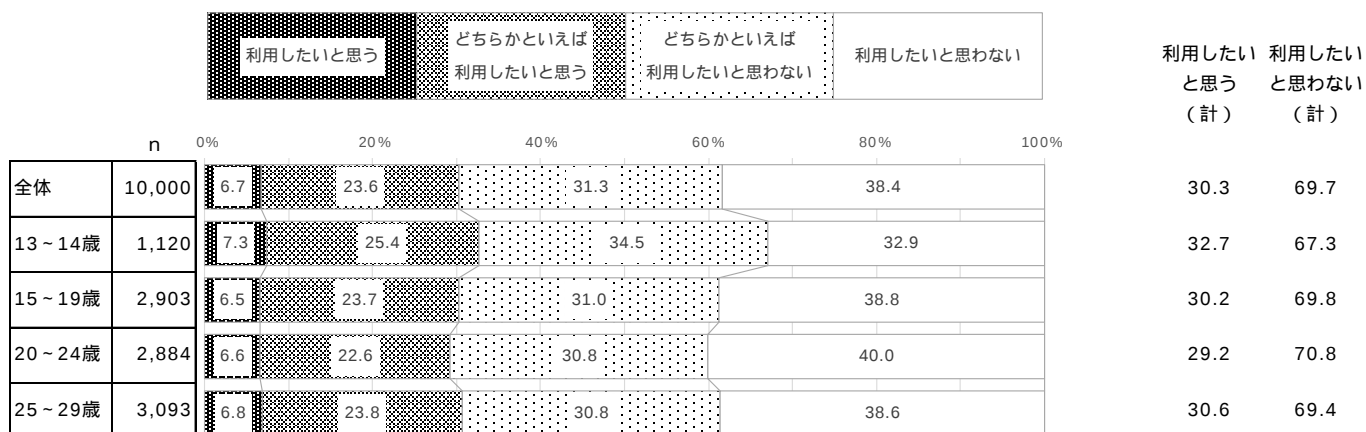
(2) 育成支援機関等の利用希望

Q17. これらの機関について利用したいと思いますか。[SA]

育成支援機関等の利用希望について全体で最も高いのは、「利用したいと思わない」(38.4%)。次いで「どちらかといえば利用したいと思わない」(31.3%)と続く。

年齢区分別でみると、「利用したいと思う」はどの年代も 1 割をきっていた。

一方、「利用したいと思わない」は“13～14 歳”(32.9%)が他の年代と比べ最も低く、全体と比較した結果、有意差が認められた。



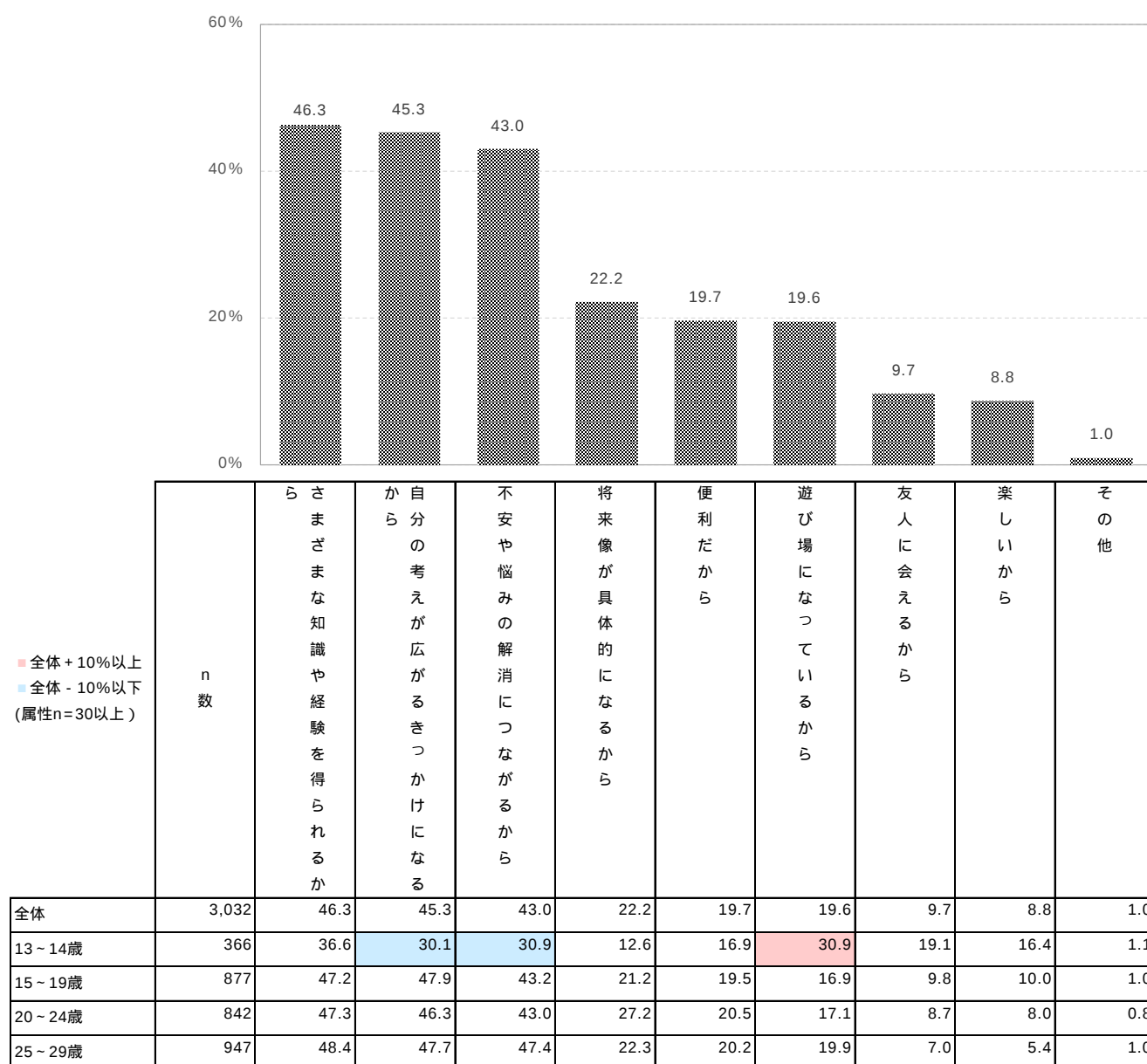
(3) 育成支援機関等の利用を希望する理由

Q18. これらの機関を利用したいと思った理由は何ですか。[MA]

育成支援機関等を利用したい理由について、全体では「さまざまな知識や経験を得られるから」(46.3%)が最も高い。次いで「自分の考えが広がるきっかけになるから」(45.3%)、「不安や悩みの解消につながるから」(43.0%)、「将来像が具体的になるから」(22.2%)、「便利だから」(19.7%)と続く。

年齢区分別でみると、「13～14歳」は「遊び場になっているから」(30.9%)が、全体と比べ10ポイント以上高く、有意差も認められている。

一方、「13～14歳」の「自分の考えが広がるきっかけになるから」(30.1%)は、全体と比べ15ポイント以上低く、「不安や悩みの解消につながるから」(30.9%)は、全体と比べ10ポイント以上低く、どちらも有意差が認められた。



Q17で「利用したいと思う」「どちらかといえば利用したいと思う」との回答者のみ回答

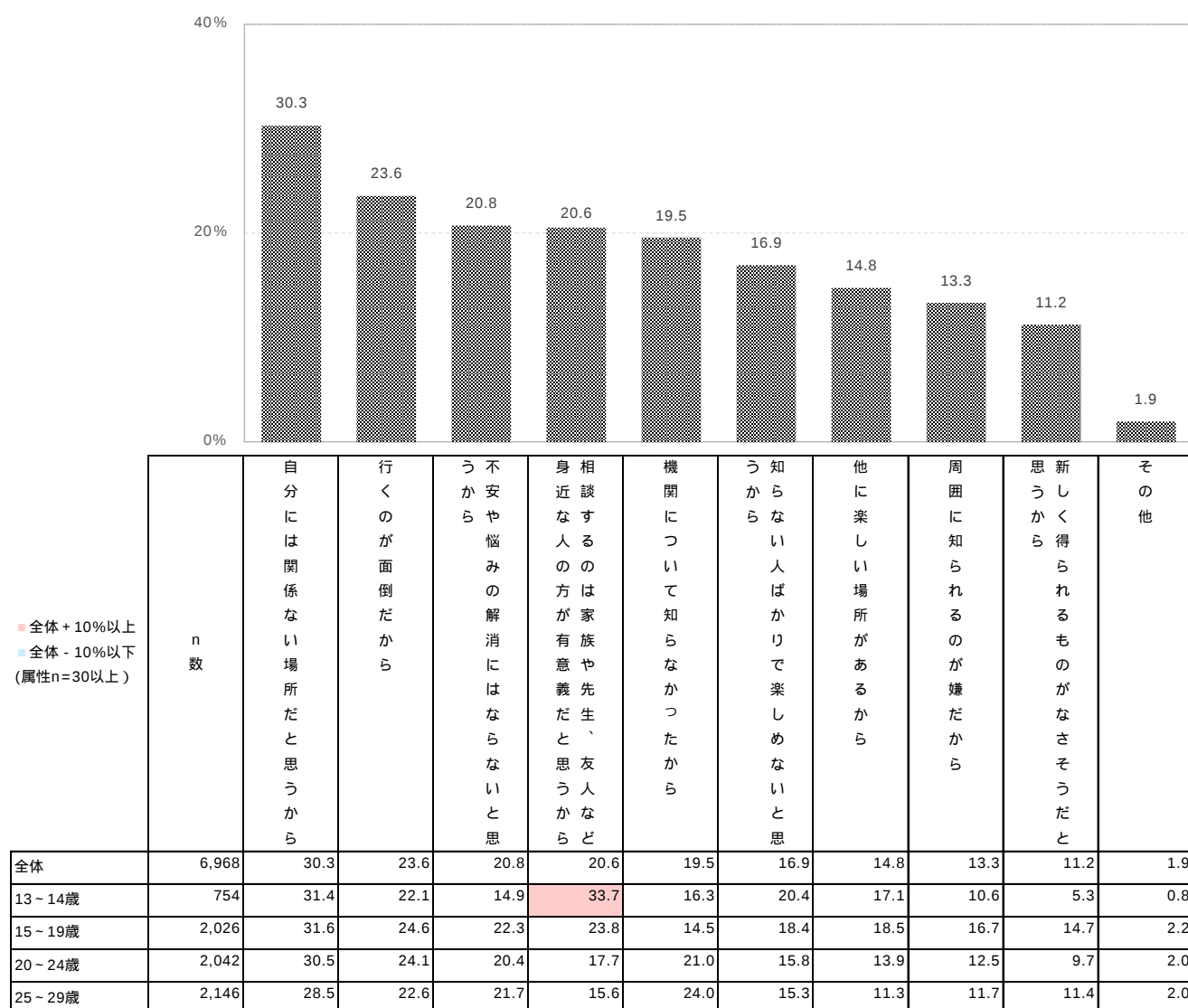
(4) 育成支援機関等の利用を希望しない理由

Q19. これらの機関を利用したくないと思った理由は何ですか。[MA]

育成支援機関等を利用しない理由について、全体では「自分には関係ない場所だと思うから」(30.3%)が最も高い。次いで「行くのが面倒だから」(23.6%)、「不安や悩みの解消にはならないと思うから」(20.8%)、「相談するのは家族や先生、友人など身近な人の方が有意義だと思うから」(20.6%)、「機関について知らなかったから」(19.5%)と続く。

年齢区分別でみると、「相談するのは家族や先生、友人など身近な人の方が有意義だと思うから」は、“13～14歳”(33.7%)が全体と比べ10ポイント以上高く、有意差が認められた。

また、「相談するのは家族や先生、友人など身近な人の方が有意義だと思うから」は年代が上がるにつれて、低くなっている。



Q17で「どちらかといえば利用したいと思わない」「利用したいと思わない」との回答者のみ回答

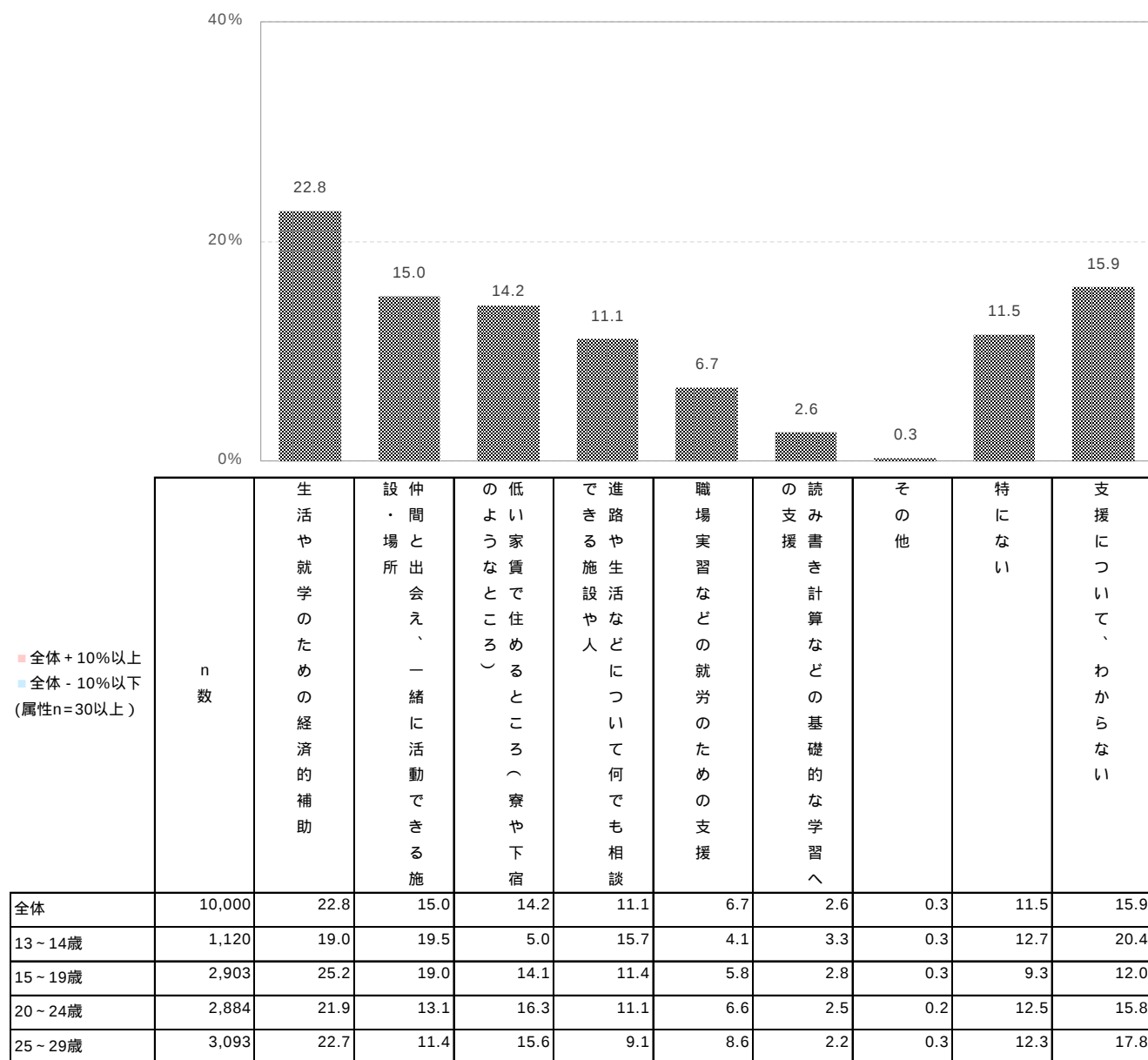
(5) 希望する支援

Q20. あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができないようなときに、どのような支援があると良いと思いますか。最も良いと思うものを1つ選んでください。[SA]

社会生活や日常生活を円滑に送ることができないようなときにあると良い支援について、全体では「生活や就学のための経済的補助」(22.8%)が最も高い。次いで「仲間と出会え、一緒に活動できる施設・場所」(15.0%)、「低い家賃で住めるところ(寮や下宿のようなところ)」(14.2%)、「進路や生活などについて何でも相談できる施設や人」(11.1%)と続く。

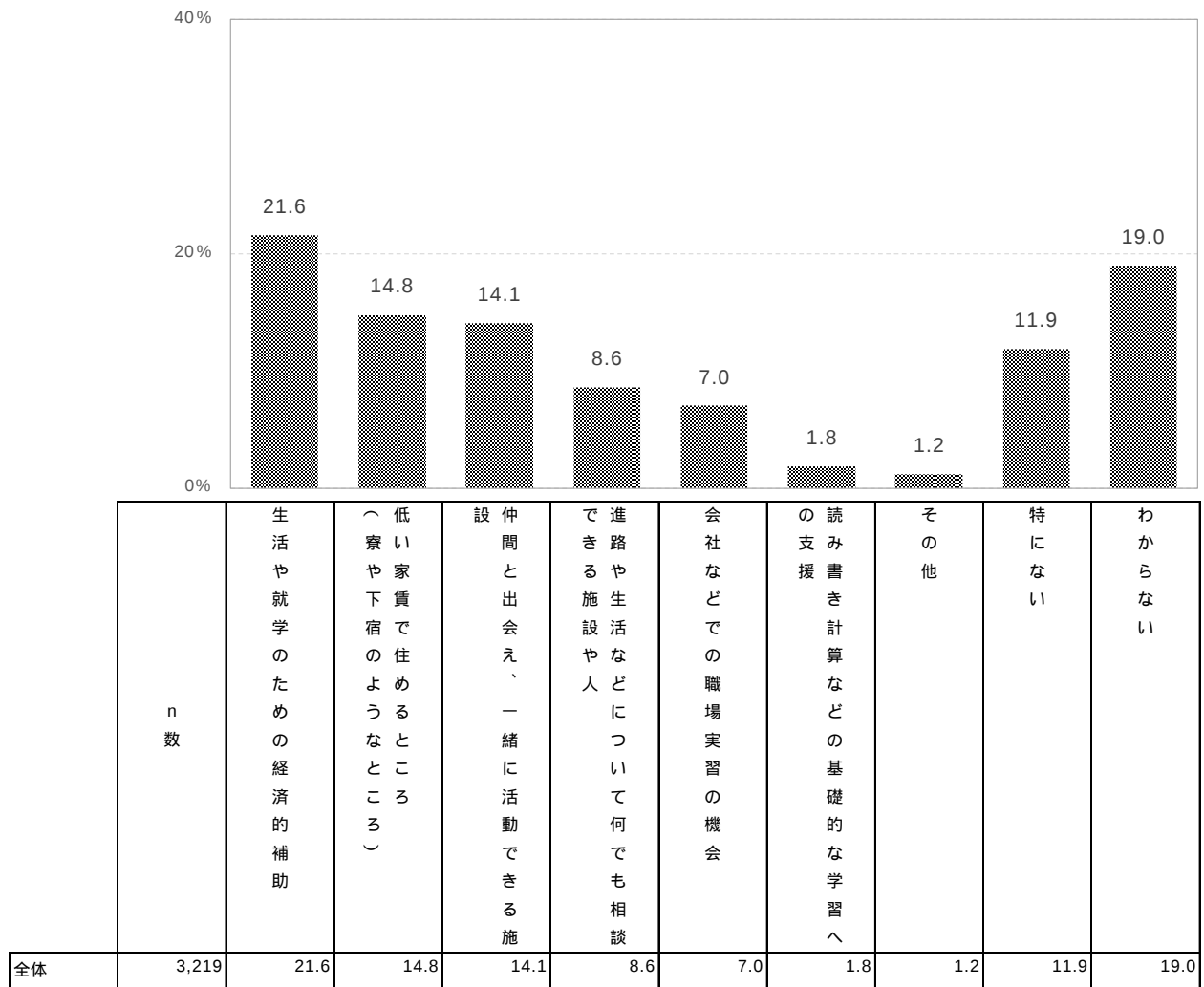
年齢区分別でみると、“13～14歳”は「仲間と出会え、一緒に活動できる施設・場所」(19.5%)、「進路や生活などについて何でも相談できる施設や人」(15.7%)が他の年代と比べて最も高く、どちらも有意差が認められた。また、どちらの項目も年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

可能な項目について過去の調査と比較すると、「低い家賃で住めるところ」「職場実習などの就労のための支援」を除くほとんどの項目において増加しており、「進路や生活などについて何でも相談できる施設や人」は2.5ポイント増加している。



<平成 24 年度調査結果>

Q. あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができないようなときに、どのような支援があると良いと思いますか。最も良いと思うものを 1 つ選んでください。[SA]



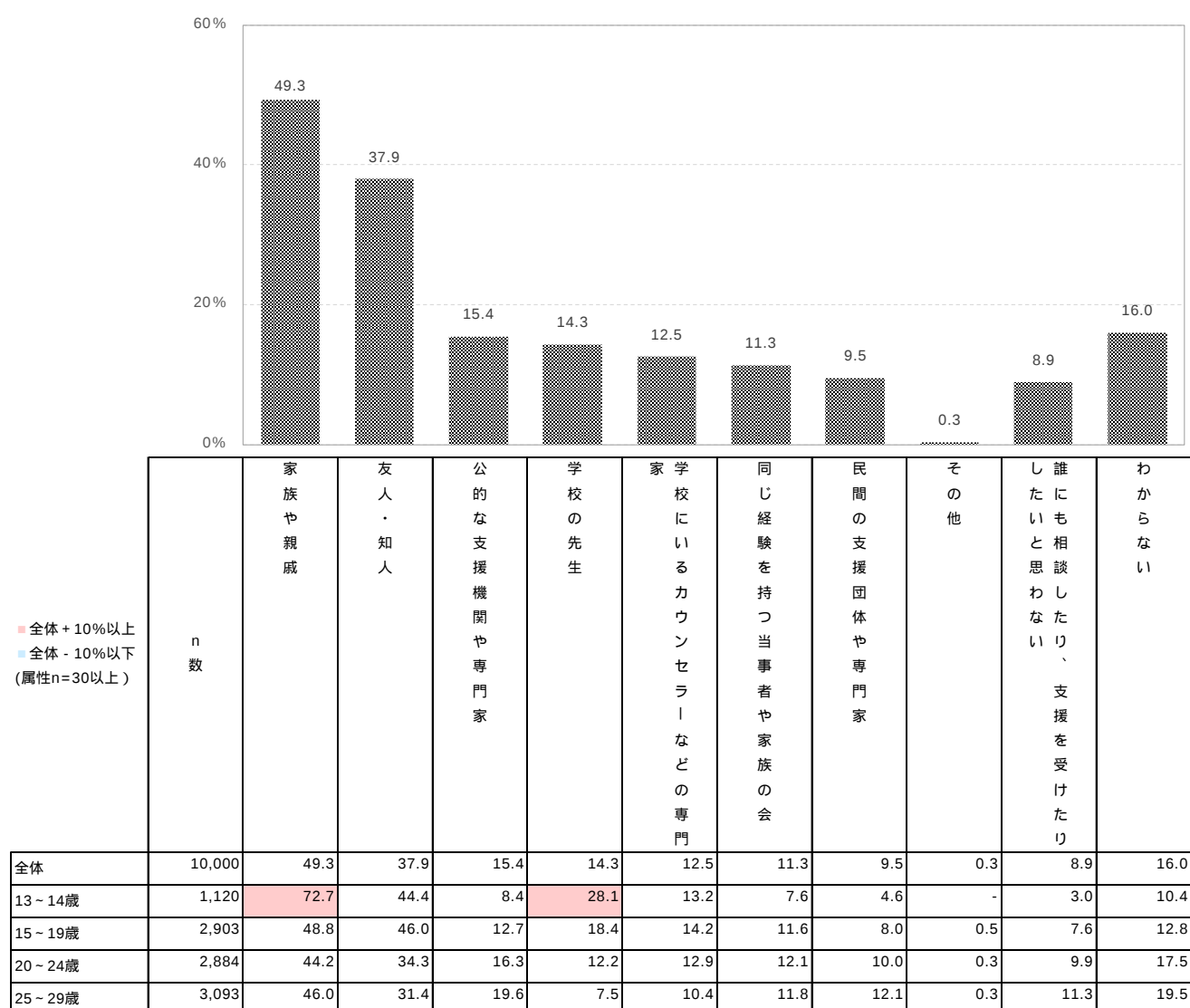
(6) 相談したり支援を受けやすい相手

Q21. あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができないようなときに、どのような機関や人なら、相談したり、支援を受けたりしやすいと感じますか。[MA]

相談したり、支援を受けたりしやすい機関や人について、全体では「家族や親戚」(49.3%)が最も高い。次いで「友人・知人」(37.9%)、「公的な支援機関や専門家」(15.4%)、「学校の先生」(14.3%)、「学校にいるカウンセラーなどの専門家」(12.5%)と続く。

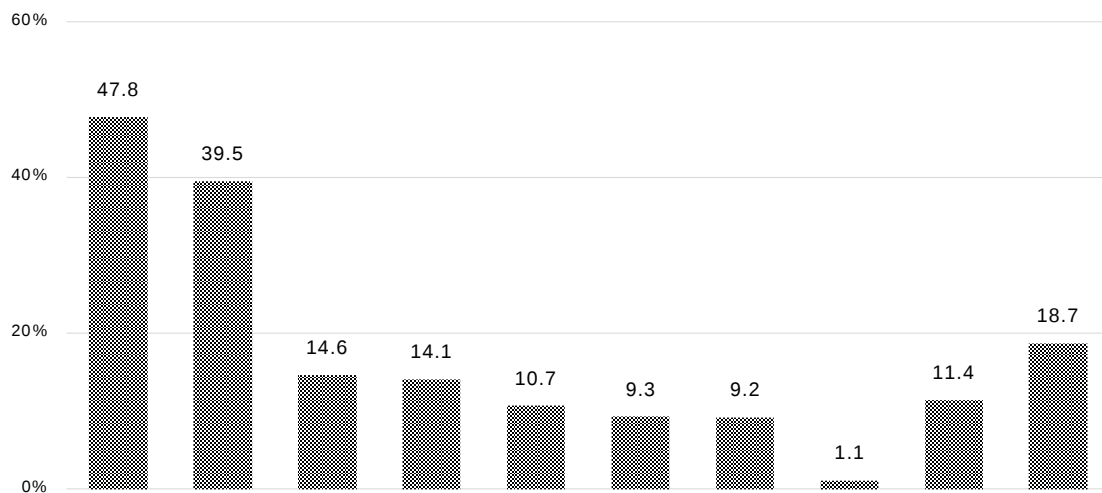
年齢区分別でみると、「13～14歳」は「家族や親戚」(72.7%)が他の年代と比べ著しく高く、全体とも20ポイント以上差があり、有意差も認められている。また、「13～14歳」の「学校の先生」(28.1%)も、全体と比べ10ポイント以上高く、有意差も認められている。

過去の調査と比較すると、上位3位までは過去と同様の順位になっており、「学校の先生」は5.1ポイント、「学校にいるカウンセラーなどの専門家」は3.2ポイント増加している。



<平成 24 年度調査結果>

Q. あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができないようなときに、どのような機関や人に、相談したり、支援を受けたりしやすいと感じていますか。[MA]



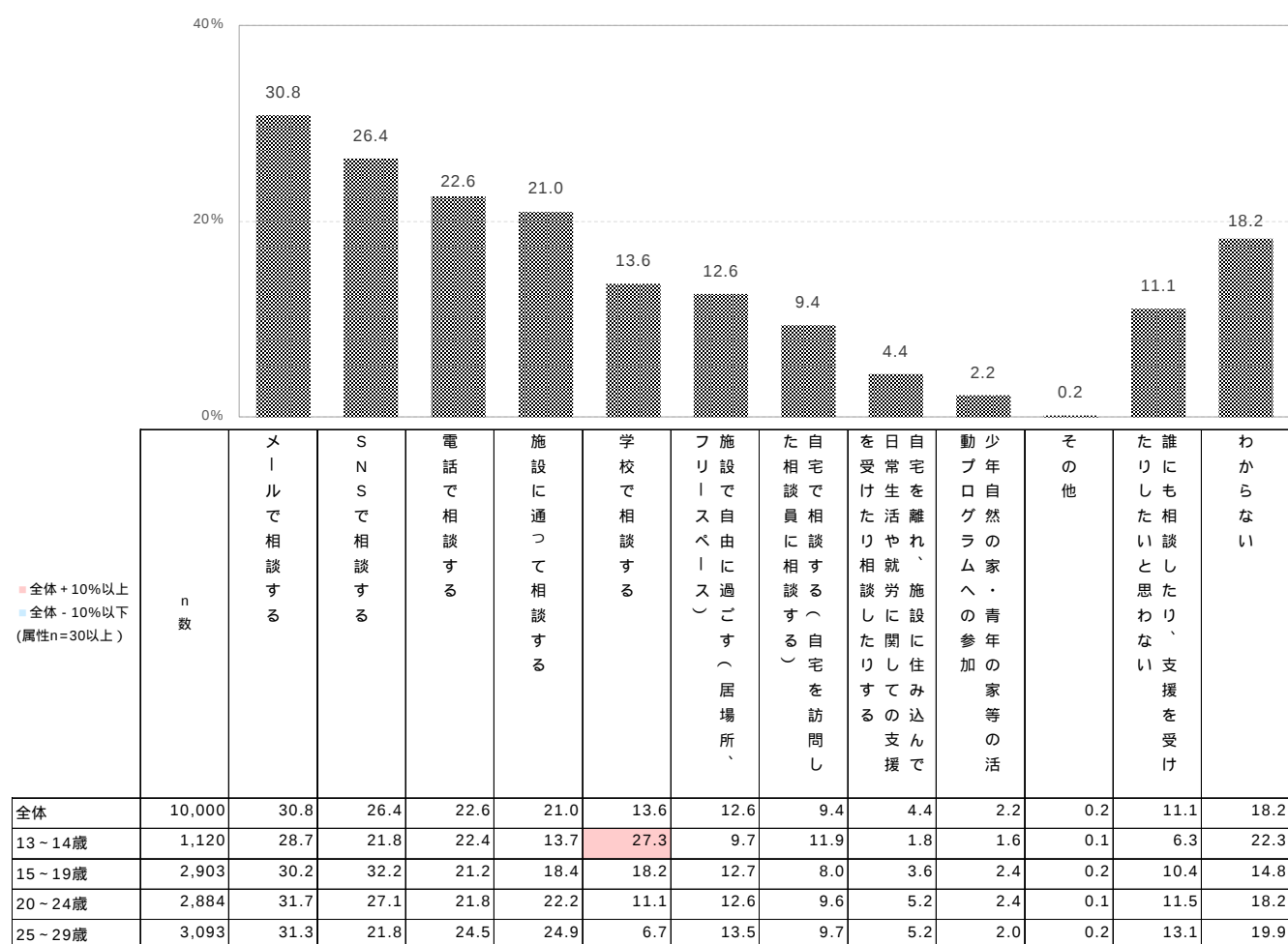
	n 数	家族 や 親 戚	友 人 ・ 知 人	公 的 な 支 援 機 関 や 専 門 家	同 じ 経 験 を 持 つ 当 事 者 や 家 族 の 会	民 間 の 支 援 団 体 や 専 門 家	学 校 に い る カ ウ ン セ ラ ー な ど の 専 門 家	学 校 の 先 生	そ の 他	誰 に も 相 談 し た い と 思 わ な い 、 支 援 を 受 け た り	わ か ら な い
全体	3,219	47.8	39.5	14.6	14.1	10.7	9.3	9.2	1.1	11.4	18.7

(7) 希望する支援の形

Q22. 公的な支援機関や専門家から支援を受ける場合に、どのような形で支援を受けたいと思いますか。[MA]

公的な支援機関や専門家から受けたい支援の形について、全体では「メールで相談する」(30.8%)が最も高い。次いで「SNS で相談する」(26.4%)、「電話で相談する」(22.6%)、「施設に通って相談する」(21.0%)、「学校で相談する」(13.6%)と続く。

年齢区分別でみると、「15～19 歳」は「メールで相談する」(30.2%) よりも、「SNS で相談する」(32.2%) の方が高くなっている。「13～14 歳」は「学校で相談する」(27.3%) が、全体と比べ 10 ポイント以上高く、有意差も認められている。また、年代が上がるにつれて、割合は低くなっている。「電話で相談する」は「 25～29 歳」(24.5%) が最も高く、「施設に通って相談する」も「 25～29 歳」(24.9%) が最も高くなっており、どちらも全体と比べ有意差が認められた。



(8) 支援者のタイプ

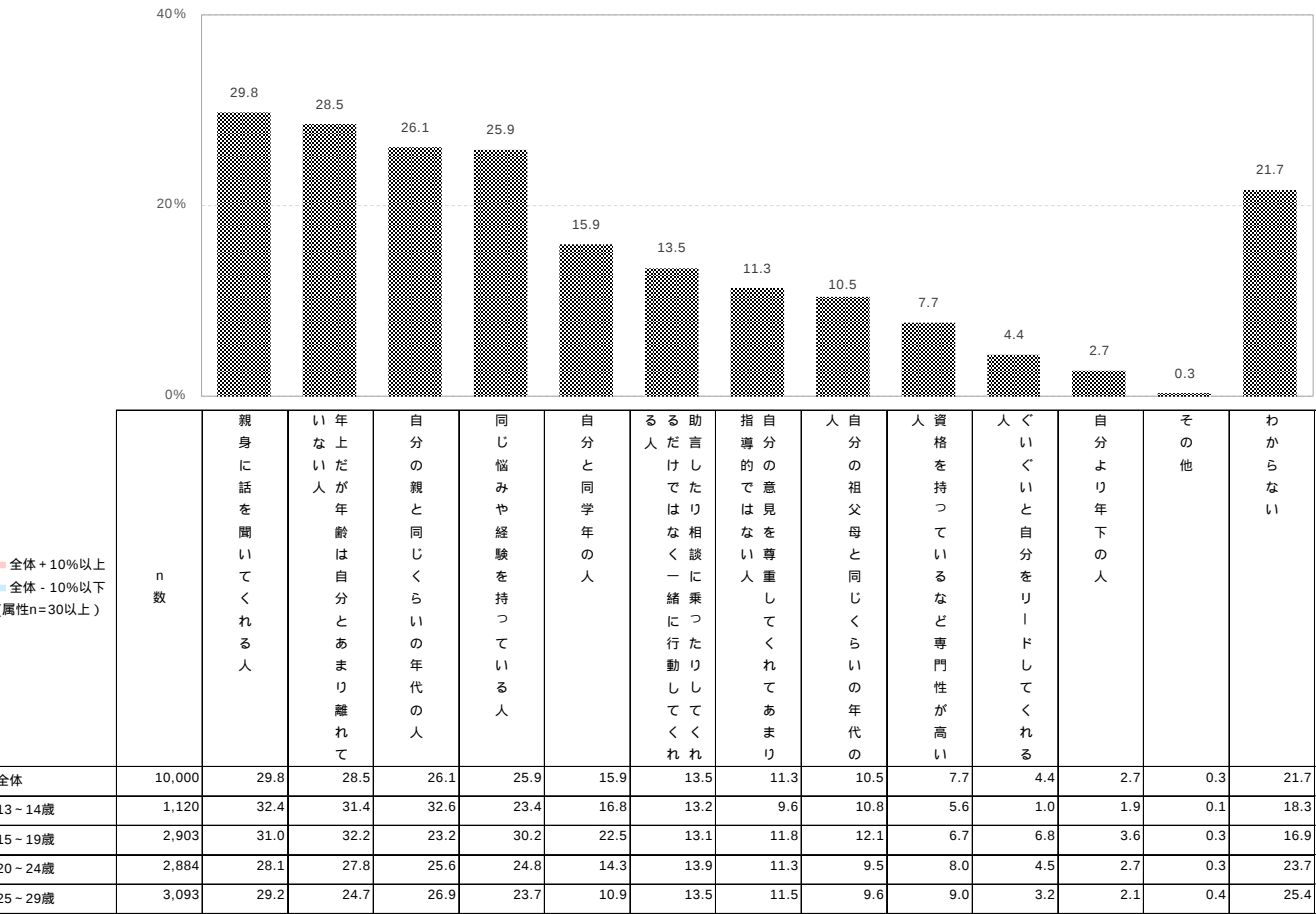
Q23. あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができないような場合に、相談したり、支援を受けたりするとき、どのようなタイプの人がよいですか。あてはまるもの3つまで回答してください。[MA]

相談したり、支援を受けたりするとき、どのようなタイプの人がいかにについて、全体では「親身に話を聞いてくれる人」(29.8%)が最も高い。次いで「年上だが年齢は自分とあまり離れていない人」(28.5%)、「自分の親と同じくらいの年代の人」(26.1%)、「同じ悩みや経験を持っている人」(25.9%)、「自分と同学年の人」(15.9%)と続く。

年齢区分別でみると、“15～19歳”は「年上だが年齢は自分とあまり離れていない人」(32.2%)、「同じ悩みや経験を持っている人」(30.2%)、「自分と同学年の人」(22.5%)、「自分の祖父母と同じくらいの年代の人」(12.1%)、「ぐいぐいと自分をリードしてくれる人」(6.8%)、「自分より年下の人」(3.6%)の6項目が、全体と比べ高く、有意差が認められた。

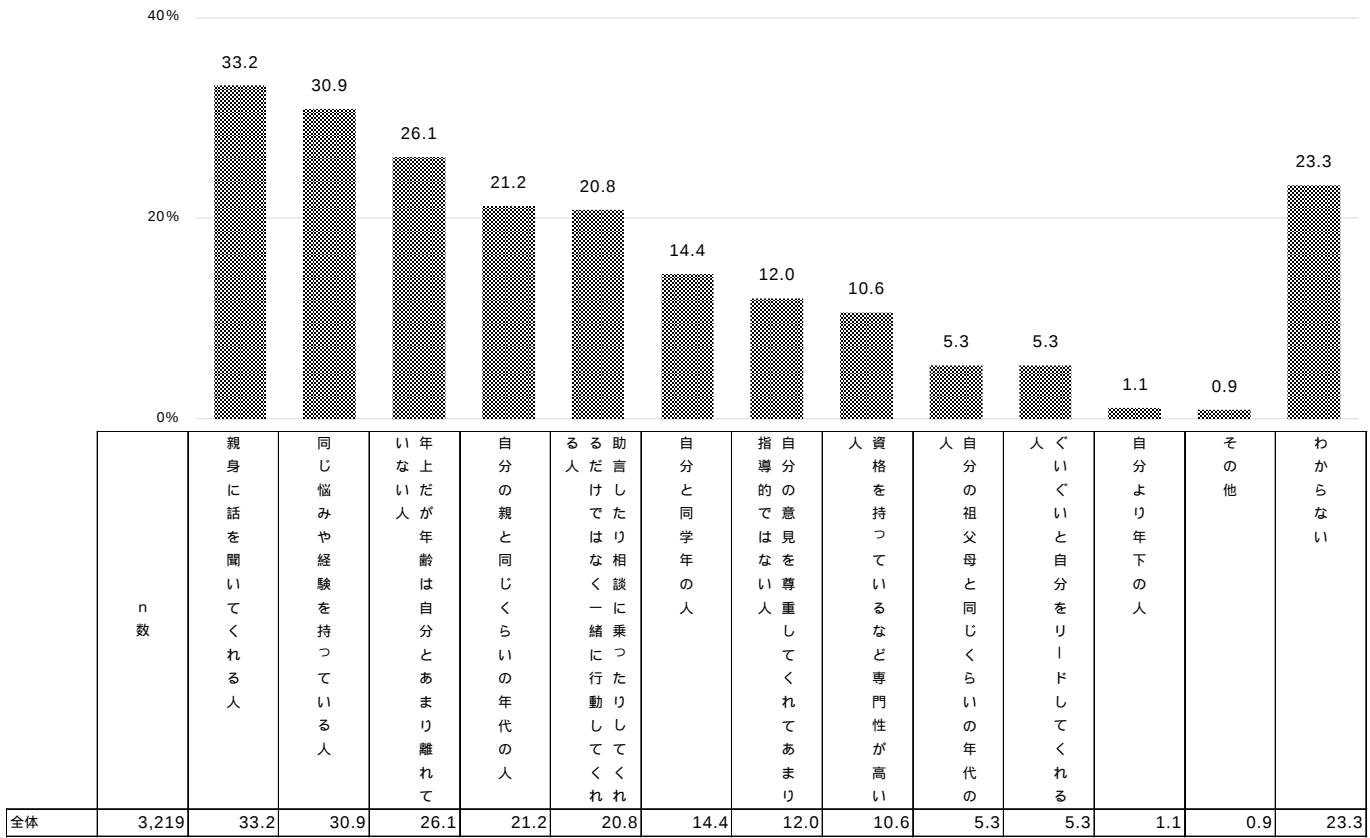
過去の調査と比較すると、「自分の祖父母と同じくらいの年代の人」は5.2ポイント、「自分の親と同じくらいの年代の人」は4.9ポイント増加している。

一方、「助言したり相談に乗ったりしてくれるだけでなく一緒に行動してくれる人」は7.3ポイント、「同じ悩みや経験を持っている人」は5.0ポイント減少している。



<平成 24 年度調査結果>

Q. あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができないようなときに、相談したり、支援を受けたりする場合、どのようなタイプの人がいいですか。当てはまるものを全てを回答してください。[MA]



(9) 問題解決のための情報収集方法

Q24. あなたは悩み事や困ったことがあるとき、それを解決、改善する方法について、どのように調べていますか。[MA]

悩みや困難を解決、改善する方法の調べ方について、全体では「インターネットで検索する」(58.5%)が最も高い。次いで「家族や親せきに相談する」(34.5%)、「友人・知人(家族や親せき以外)に相談する」(34.1%)、「掲示板やSNSで解決方法を質問する、募集する」(15.0%)、「学校の先生に相談する」(9.1%)と続く。

年齢区分別でみると、“13～14歳”は全体と比べて、「家族や親せきに相談する」(58.0%)が20ポイント以上高く、「学校の先生に相談する」(21.5%)が10ポイント以上高く、どちらも有意差が認められた。

一方、“13～14歳”の「インターネットで検索する」(45.4%)は、全体と比べ10ポイント以上低く、有意差も認められている。

